16. 内 野 兼 敏 専 門 家

赴任時報告書
業務報告書

（５７年１１月分）

５７年１２月　８日

国際協力事業団
派遣事業部長殿

第１号

氏名	内野兼敏
指導科目	ＳＰＣ交換機保守運用
現住所	№３．JALAN SETIAKASIH, EMPAT, BUKIT DAMANSARA, KUARA LUMPUR, MALAYSIA
通信連絡先	同上　(Tel, 949916)
勤務機関名および住所	IBU PEJABAT TELEKOM NEGARA, JABATAN TELEKOM,（機関名） BUKIT MAHKAMAH KUALA LUMPUR, MALAYSIA （住所）

1. 勤務機関

(1) 勤務機関名及び住所……同上

(2) 勤務機関の沿革，予算……現地点不明

(3) 組織図……別紙（ただし総裁は近く退職の予定である。現在休暇中の模様）

(4) 職員数……約２２,０００人

(5) 職務内容……電気通信全般の維持，増設

(6) 執務室の状況…交換局長Mr．Radzi氏の部屋の前室に机，椅子，本棚を配置されている。

(7) 勤務時間及び休日……(月)～(木)　8:00～10:00　10:30～12:45　2:00～4:15
(金)　8:00～10:00　10:30～12:15　2:45～4:15
(土)　8:00～10:00　10:30～12:45
（10:00～10:30はコーヒーブレイク）

休日は日，祭日のみ。

(8) 当該機関における第３国の協力の有無　－国際機関を含む－

ＩＴＵ専門家としてMR. KENNET LINDQUIST（スエーデン人）がテレコムの学園に勤務している。アジア大平洋地域訓練開発を担当している。

(9) 年次休暇数……専門家は２５日

2. 業　務　内　容

(1) 勤務機関の業務……本社では7つの地方通信局を管轄している。交換局は全交換機及びデータ関係を担当している。

(2) 専門家の業務……ＮＥＣ製ディジタル交換機（NZAX61）の保守運用全般のアドバイス

3. カウンターパート

(1)　（氏　名）　（年令）　（職　位）　（専門）

CHUA AH KIT　３０才　コントローラ　交換

（昨年，日本のＮＥＣで約１ケ月半のディジタル交換機の訓練を受講済み。専門家の直接の上司になる。方針的な問題では常にディスカッションをする。）

(2) ITHNIN HJ OTHMAN　２４才　アシスタントコントローラ　交換

（現在日本へ行っている。１０月から１２月上までＮＥＣでデイジタル交換機の訓練を受講し，その後１２／６～１２／１０までＮＴＴ（電電公社）で電子交換機の保守運用についてディスカッションを行い，各種電話局等を見学する予定。なお，この経費はこちらのテレコム持ちで調整した。）

4. 指　導　計　画……別紙

5. 機材……タイプライター，文房具の引取りに３週間かかつた。ＪＩＣＡの専門家ははじめてなので慣れていない為と思われる。

6. 現地生活の実情

(1) 住居……外国人の住むところは全般的に高価。庭，室内とも日本より広い。住宅建設は活発である。。

(2) 食事……最も不自由している。新鮮な生野菜の入手が不便で，日本で菜食の方だったため苦労している。肉類は比較的入手は容易である。くだものも種々そろっている。米はジャパンクラブを通じカルフォルニヤ米を入手する。

(3) 言語通信……クアラルンプール内は一部市場等を除き英語が通じる。タクシーも英語で問題なし。

(4) 日常品……現地品，輸入品を含めると品物は比較的豊富であるが，たとえばワインの栓抜きといった特殊なものを捜そうとすると仲々入手がむずかしい

(5) 祝祭日……ア。新年　　１月１日

イ，モハメット生誕日　　１月８日（毎年変わる）

ウ．中国人旧正月　　1月25日～26日（毎年変わる）

エ．首都クアラルンプール制定記念日　　2月1日（クアラルンプールのみ）

オ．メーデー　　5月1日

カ．シャカ生誕日　　5月8日

キ．王様誕生日　　6月2日

ク．断食あけの祝日　　7月22日～23日（毎年変わる）

ケ．国家独立記念日　　8月31日

コ．メッカへの巡礼遂行者＜ハジ＞を祝う日　　9月28日（毎年変わる）

サ．イスラム歴新年　　10月18日（毎年変わる）

シ．ヒンズー教徒祝日　　11月14　（　〃　）

ス．クリスマス　　12月25日

(注)祝日が日曜日の場合，月曜日がふりかえ休日となる。

(6) 任国滞在にかかる手続き……ビザ手続きが大変で，当初空港で1ケ月，その後3ケ月現在は約9ケ月で，その都度イミグレーションへ行く必要があり，申請後4～5日後再度受取りに行く必要あり。

(7) 教育……日本人学校がある。（日本人クラブ入会が条件）　学年によっては入学不可のところもあると聞いている。又，地域によっては，スクールバス空席なしのところもある。

(8) 健康状態……子供が2度高熱を出したが，その後は健康である。夜，時々蚊にさされる。（うみをもったはれかたをする）

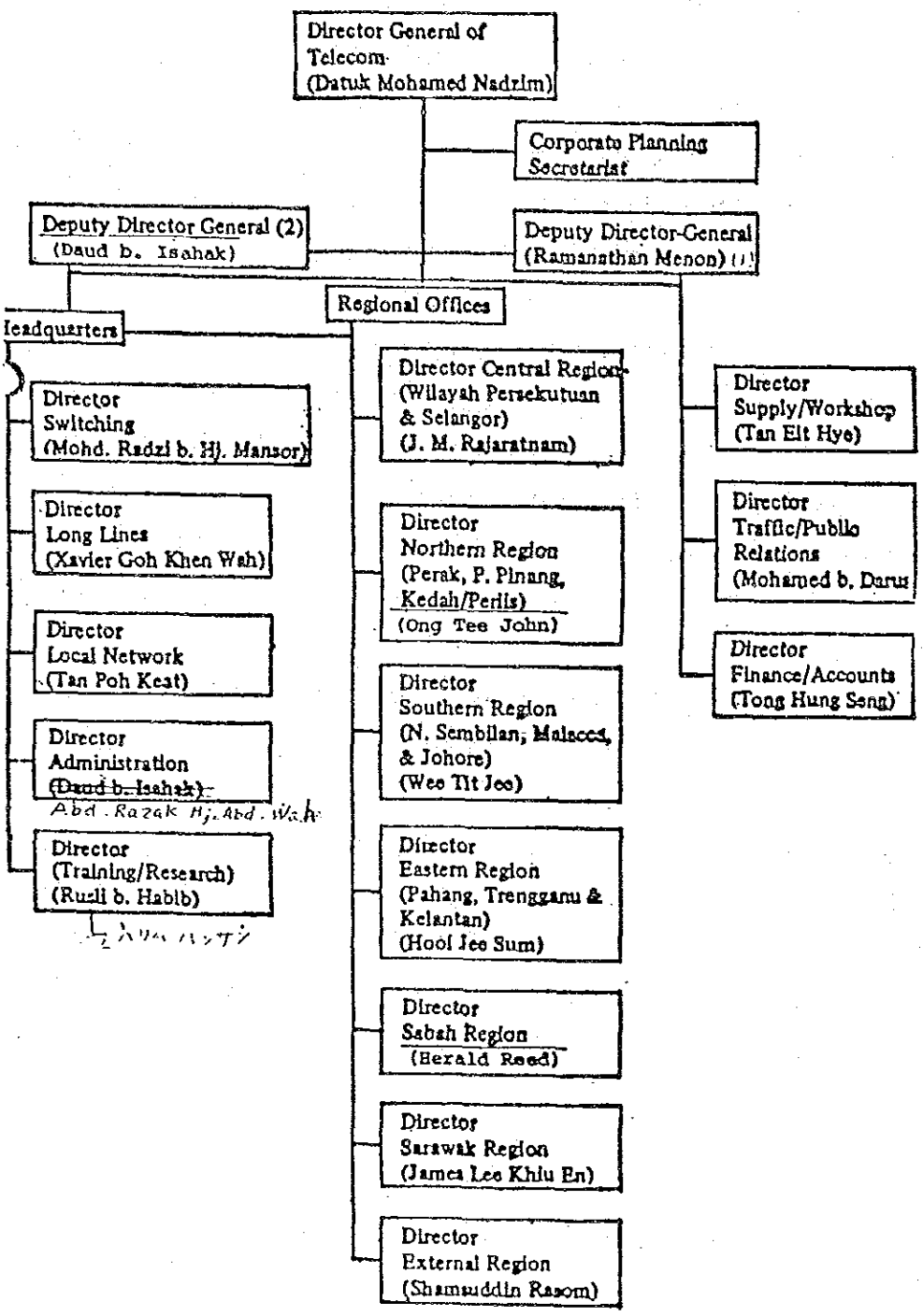
7. 赴任時の任国に対する印象

気候は思ったとおり暑く，10～15分外を歩くと気分が悪くなりそうである。1日1回雷を伴った大雨が約1時間降るが，男性的で気持が良い。あと涼しくなる。

町の印象は一部スラムに近いようなところもあるものの全体的に整備されている。高層ビルも立ち並び，車も多い。ルックイーストポリシーのせいかよく日本人かと聞かれる。

TELECOMMUNICATION DEPARTMENT
ORGANISATION CHART

Jabatan Telekom Malaysia



SCHEDULE PLAN

	82				83								84											
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	(Sep)	(Oct)	(Nov)	(Dec)	(Jan)	(Feb)	(Mar)	(Apr)	(May)	(Jun)	(Jly)	(Oct)	(Sep)	(Oct)	(Nov)	(Dec)	(Jan)	(Feb)	(Mar)	(Apr)	(May)	(Jun)	(Jul)	(Oct)	(Sep
	Studying about existing Malaysian Telecommunications																								
a) JTM organization																									
b) JTM staffing					Procedure for O/M																				
c) xchange					(a) facilities management																				
d) signalling					(b) daily work and regular test								Preparation to set up CMDC												
e) numbering					(c) operation file management								(a) organization												
f) line and transmission construction etc.					(d) report the state of the maintenance etc.								(b) staffing												
													(c) technical matters etc. studying a repair centre												
													Return to Japan								Total arrangement				
																					OM REVIEW				

17. 横 野 義 和 専 門 家

赴任時報告書
業務報告書

（５７年１１月分）

５７年１１月　３日

国際協力事業団
派遣事業部長殿

第１号

氏名	横野義和
指導科目	ＳＰＣ電話交換機（ソフトウェア）
現住所	№17 BLOCK-B LAKSAMANA APT. OFF JLN. TELUK GADONG, 3½OLD KLANG ROAD, KUALA LUMPUR
通信連絡先	勤務先TEL. 200200 EXT2072
勤務機関名および住所	IBU. PEJABAT TELEKOM NEGARA, JABATAN TELEKOM, BUKIT MANKAMAH K.L.

以下のとおり報告致します。

1. 勤務機関

沿革．予算．第３国の協力　調査中

組織図　別紙１参照

職員数　２２,０００人（１９７９年）

執務室　カウンターパートを含む。２人専用室

勤務時間と休日　月～金 8:00～4:15（昼休み12:45～2:00 金は12:15～2:45）

土　8:00～12:45

約１０日のnational holiday

年次休暇数　３０日

2. 業務内容

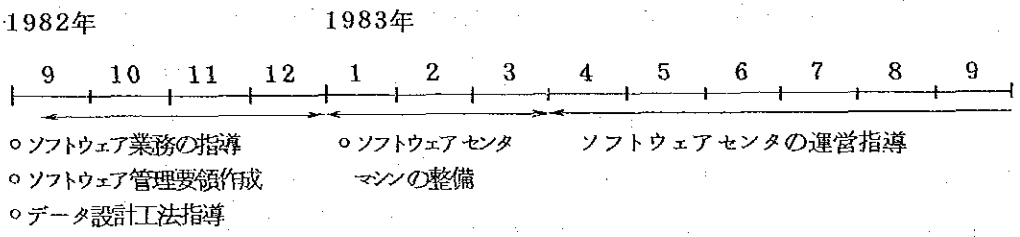
機関の業務　マレーシア国の電気通信サービスの運営

専門家の業務　来年，ソフトウェアセンタを設立するため，技術者に技術移転を行うとともに，ソフトウェアセンタ組織に関するアドバイスをする。

3. カウンターパート

氏　名	① MR. OMAR	② MRS. AZIZAH
年　令	32	30
職　位	Senior Engineer	Staff Engineer
専門分野	電話交換機ソフト	〃
業務上のかかわりあい	・ソフトウェアの総括担当 ・技能移転の担当	・技能移転の担当

4. 指　導　計　画



5. 機　　材

輸送機材はカセットテープレコーダ（ポケットコンピュータ入出力用）が盗難にあった他は着いた。

購入機材は未到着

6. 現地生活の実情

ア、住居，食事，言語，日常品，任国滞在にかかる手続は問題なし。

イ．教育に関しては，幼児部年中以下が定員オーバーのため入学不可。

ウ．健康に関しては，デング熱の発生が流行している。対策がないため心配。

7. 赴任時の任国に対する印象雑感

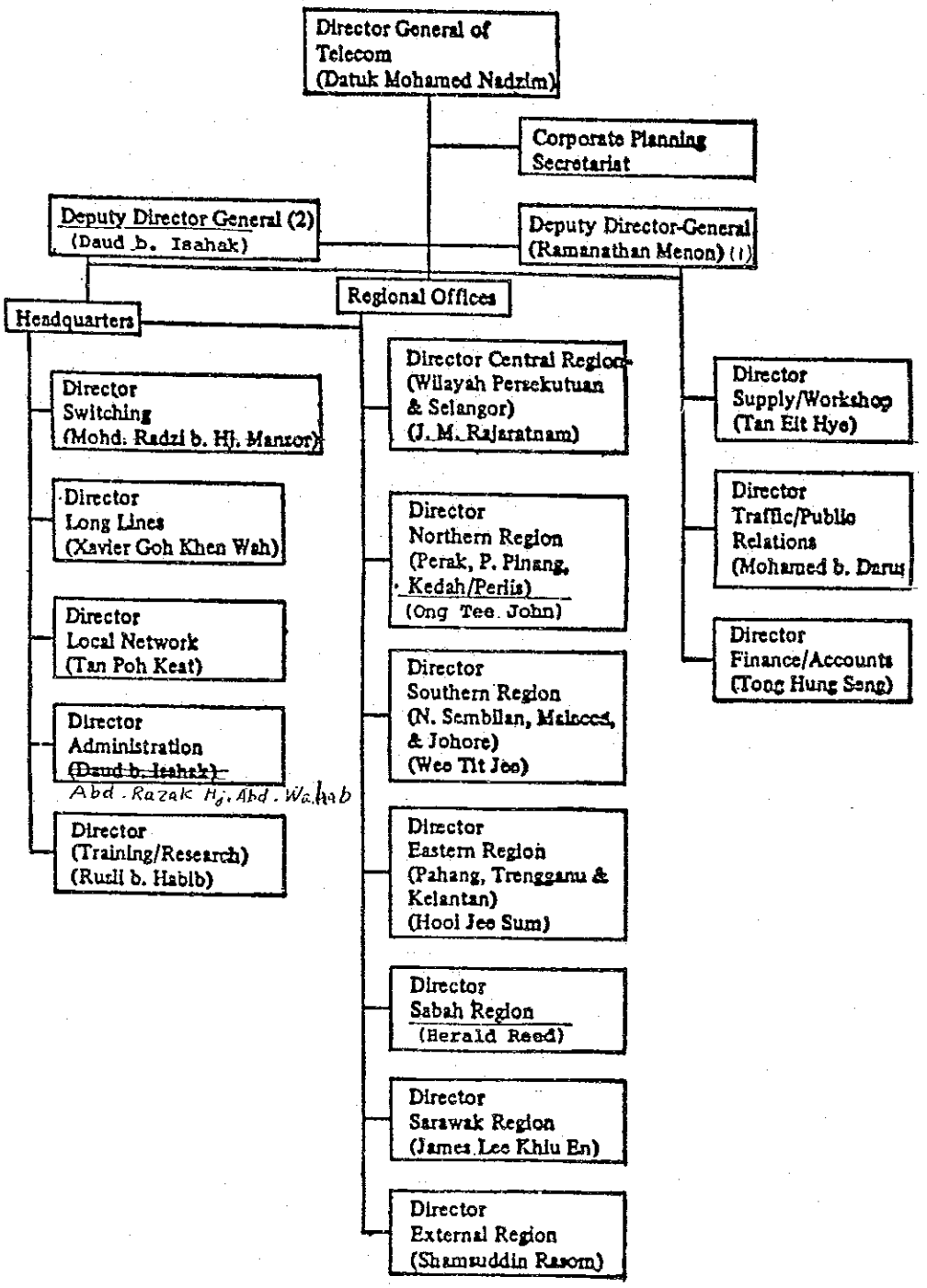
ＪＩＣＡ職員の親身のお世話によって赴任時の多忙を無事乗り切ることができたので感謝いたします。

ただ，ＪＩＣＡ　ＯＦＦＩＣＥには電話が１本しかないのと，私自身の家にも未だ電話はつかないというように，電話事情は予想以上に悪いため，当初心配していたように，トランシーバーを持ってくれば良かったと思っています。どうか，今後は私等のように電気通信を担当する者には，トランシーバーの携行を許可するようにしてもらいたいと思います。トランシーバーの運用許可は我々に対しては容易に出るようです。又，個人で持って来た場合は，盗難に会いますが，ＪＩＣＡ携行品であれば，その場合の処置が取れやすいと思います。

定期報告資料　別紙1
マー　シヤテレコム組織人名　　1982年10月19日現在

TELECOMMUNICATION DEPARTMENT
ORGANISATION CHART

Jabatan Telekom Malaysia



18. 辻　　勝男専門家

赴任時，兼定期
業務報告書

57年10月分

58年 2月迄　　58年 3月 3日

国際協力事業団
派遣事業部長殿

第 1 号

氏名	辻 勝男
指導科目	冷凍，空調
現住所	No. 12, Pesiaran Basong, Damasara Heights, Kuala Lumpur Malaysia
通信連絡先	同上　Tel：944176 (K. L.)
勤務機関名	Mechanical Division, Public Works Department Headquarters, Ministry of Works and Utilities, Malaysia （マレーシア政府公共事業省公共事業局機械事業部設計部） （現地語） Cawangan Jentera, Ibu Pejabat, Jabatan Kerja Raya, Kementerian Kerjaraya Dan Kemudahan-Kemudahan Awam, Malaysia
同上住所	Jalan Tun Isamail, Kuala Lumpur, Malaysia
同上 Tel	911011 (K. L.) Ext. 3815

赴任兼定期報告〔I〕

目次　1～4ページ

本文　1～43ページ

資料　8セット

目　　次

資料目次

－以上－

赴任時報告書
兼定期報告書(I)

(1) 勤務機関

1. 勤務機関名

Mechanical Division, Public Works Department Headquarters, Ministry of Works and Utilities, Malaysia

(マレーシア政府公共事業省公共事業局機械事業部設計部)

現地語;

Cawangan Jentera, Ibu Pejabat, Jabatan Kerja Raya, Kementerian Kerjaraya Dan Kemudahan-Kemudahan Awam, Malaysia

2. 勤務機関住所

Jalan Tun Ismail, Kuala Lumpur, Malaysia

3. 勤務機関の沿革

約100年程前，マレーシアがイギリスの統治下にあった時代にデーヴィドスンがK. L. を中心としたセランゴール州の道路を建設した。(1874) そのことが公共事業省の始まりだと言われている。その時にはこの省には道路部しかなく，又技術者はイギリスの道路技師が1人いただけであった。その後時代を経るに従って，土木，建築，機械電気の技術者が勤めるようになった。第二次大戦の頃(1941年末)，当公共事業局は現在の場所にあり，一時日本軍の爆撃で破壊されたと伺った。日本軍占領当時は，山下大将が現在の道路部の旧館に総司令部を置き，軍政をしいた。戦後イギリスの機械電気技師が現在の機械部とか電気部の礎を築いた。1969年，市民戦争の後，イギリスの技師達は高齢化した為か帰国し，その後中国系，インド系の幹部が機械事業部を経営するようになり，現在に到っている。所で，当沿革を調査する為に機械部史があるか調べてみたがなく，機械事業部工場史がFederal Work Shop (全州連合工場) の資料室にあると聞いたので探してみたが見当らず，もし発見できれば定期報告で詳しく述べたいと思う。

以上のような成行で発展してきた当部は当然のことながら，道路用建設機械(コンバイン，ショベル，ブルトーザーなど)等の購入とその保守，修理又は取り換え等の仕事が主であった為かFederal Work Shopが発展した。土木関係では採石，砕石，ベルトコンベア設備等の取扱いとそれによる工事関係も当部の仕事となった。一方，このような土木建設機械が発展するにつれてビル建築も増え，その設備の保守修理から出発し，これを適

切に採用する為の設備設計が必要となり，まずは，給排水，衛生設備，及びエレベーターの設備設計，設置及び保守修理を行なうようになった。次いで，１９６８年当部に初めて，空調設備設計を組み入れた。又現在ビルの防火設備が強調されている関係上，建物内にこの設備を組み入れるように研究調査が行なわれ，関係者の研修会が続いている状態である。

4. 予　　算

赴任後，予算について問い合わせしたが，どういう訳か適切な回答は得られなかった。しかし，まずわかったことは，日本と違って年度初めが１月であること（日本の場合は４月），２月に１９８３年度の予算案が公表されること，従って２月中旬，当資料を入手することができたので，下記の通りの資料を添付する。

記

4.1　公共事業省予算書図書名；Anggaran Belanjawan Tahun 1983
Belanja Mengurus Jilid Ⅱ

4.2　発行元；Kementerian Kerjaraya Dan Kemudahan Awam
（マレーシア政府公共事業省）

4.3　予算内訳表；資料１－２の写し参照のこと。

注；(5)は，予算項目と予算№
(6)は，１９８２年度予算
(7)は，１９８２年の実算
(8)は，１９８３年の認可予算
(9)は，１９８４年の申請予算
(10)は，(9)－(8)で来年度の予算増加取得目標

当予実算表は機械事業部，設計部と全国各州の州工場を合算したもので，Federal Work Shop の予実算表は除く。
なお，単位はM＄である。

4.4　'８３年の機械事業部の四半期予算（但しFederal Work Shopは除く）；
Ｂ６２－Kem. Kerja Raya Dan Kemudahan Awam１９８３
資料１－３を参照のこと。（単位はM＄）
左端は'８３年の四半期認可予算で，これが達成しないと次の四半期の予算が認可されない仕組。次項の数字は予算コード。次の項目の（ ）内はマレー語の英訳。更に詳細を調べたい時は右端の数字が内訳表の頁であるが，内訳表は添付省略する。この数字からわかるように，殆んどの項目が日本と同じように，世界不況の影響で'８３年度の申請予

算（ '84年度とほぼ同じ）が，削減されている。

4.5　現地業務費の予算申請

機械事業部設計部の初級技術者約30名に対する冷凍空調の講義に必要な諸経費を当事業部の予算の中から捻出しようと試みたが，既に'83年度の予算は決定済であり'84年度の予算も申請済なので，'85年度になるのではないかと想定される。赴任前に日本で現地業務費は，予算の関係で出来るだけ現地政府へ接渉して，当政府から捻出するようにとのことで試みたが，上記の様な理由で不可能になった。しかも当事業部より講義をしてくれとの要請が強いので講義をすることになるが，その為に発生する諸経費は現地業務費の臨時支給を申請させていただきたい。その内訳は下記の通りである。

記

4.5.1　支出費目　○調査研究謝金（約7,200M$／年）

講義ノートのBritishによる英文チェック費用

○消耗品費（約1,800M$／年）

オーバーヘッド用フィルムと枠，ノート等筆記具一式

○印刷製本費（約1,800M$／年）

講義スケジュール，目次，ノートの英文タイプ印刷

外注費，図表等のコピー費用一式

○資材購入費（約3,150M$）

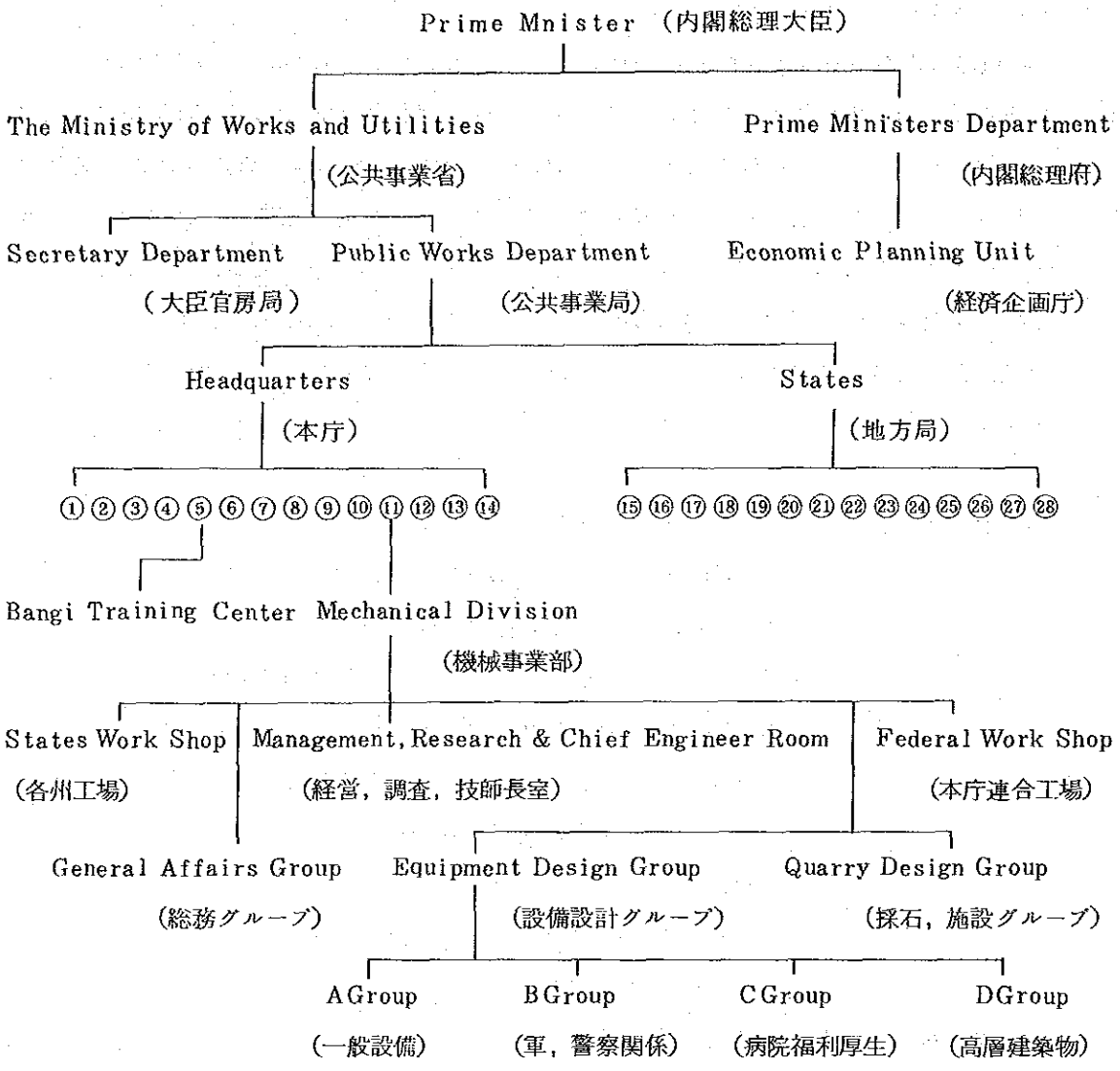
技術教育用VTRテープ及び日本からの輸送費

オーバーヘッドプロジェクター

4.5.2　概算支出額　13,950M$

4.5.3　詳細；臨時支給申請書に記載する。

5. 組織図



注 1.

辻は，技師長室に所属し，設備設計各グループの技術コンサルと講義を担当している。

注 2.

各Division (①～㉘) までの名称は下記の通り。

記

①	Road	⑥	Medical & Health Works
②	Water Supplies	⑦	Home Affairs Works
③	Design and Research	⑧	Military Works
④	Building	⑨	Federal Territory
⑤	Education Works	⑩	Management

⑪ Mechanical
⑫ Electrical
⑬ Quality Survering
⑭ Stores
⑮ Perlis State
⑯ Kedah 〃
⑰ Penang State
⑱ Perak 〃
⑲ Selangor 〃
⑳ Water Works Selangor State
㉑ Negri Sembilan 〃
㉒ Malacca 〃
㉓ Johore 〃
㉔ Pahang 〃
㉕ Trengganu 〃
㉖ Kelantan 〃
㉗ Waterworks Perak 〃
㉘ Waterworks Negeri Sembilan 〃

注3.

各事業部長の氏名と，その写真の写しを添付する。資料２－１，２－２

なお，公共事業局長は，Tan Sri Dato Muhd Yusuf b. Muhd. Yunus

①～③までは局第一次長　Ho Thian Hock が担当

④～⑨までは局第二次長　Talka bin Haji Mohd. Hashim が担当

他の番号は局長直轄。

機械事業部長は　Hew Wui Lim でその下に二人の部次長がいる。

部第一次長は　Yap Pow Fah で本庁設計グループと各州工場を担当。

部第二次長は　Yeo See Wang で Federal Work Shop を担当。

注4.

技術者の階級は次の順通り。

[1] Director （事業部長）

[2] Dupty of Director （部次長）

[3] Chief Engineer （技師長）＝Senior Assistant Director

[4] Senior Engineer （主任技師）＝各設計グループ課長＝ Expert

[5] Junior Engineer （技師）

[6] Technical Assistant （技師補佐）

[7] Technician （技能者）

6. 職員数とその職務内容

6.1 機械事業部設計部全職員数…計７８名

各州工場とFederal Work Shop の職員は除き，ＪＩＣＡ Expert 辻は含まれる。（局全員の職員数は約４万人）

6.2　職員内訳

Engineer	計２４名
部長１名，次長１名，技師長２名，主任技師５名（Expert １名含む）	
技師１５名	
Technical Assistant	計１４名
Technical Superscale（契約係）	１名
Clerk Special Grade（事務長）	１名
Sknographen Special Grade（事務長補佐）	１名
Technician Special Grade（特殊技能者）	計　２名
Technician　（技能者）	計２０名
Clerk（事務員）	計　６名
Typist（英文タイピスト，マレー語タイピスト各２名）	計　４名
Office boy（書類配布，雑用）	計　４名
Driver（部専属運転手）	１名

6.3　職務内容

職員の職務内容は添付書類　資料３（マレー語）の通り，和訳は次頁の通り。職員の職務基準は現在入手できないので次回に報告する。但し，Expert の基準はマレーシア政府のGeneral Circular No.1 of 1979とそのAmendment（訂正）及び派遣の手引と派遣事業の概要に基づく。又その内容はＡ１フォームの内容と当職務内容に基づいて職務指示が与えられていると思われる。

6.4　設計技師職務内容（Duty List）…馬文和訳

① 設計グループをリードし，建築物に設置された機械装置，特に軍関係の施設の設計，製図仕様の作成と管理

② 入札書の作成と入札業者の召集とそれに基づく契約書の作成及び契約実施後の工程管理に関して責任をもつこと。

③ 機械の据付技術並びに工程の管理及びその検査に関して責任をもつこと。例えば空調設備，エレベーター，防火設備，厨房設備，建設機械等のプロジェクトが技師の管理下に置かれている。

④ 大プロジェクトの現場打合わせ，又は現場検査の際に技術勧告と決定をする。

⑤ 公共事業局と同様に他の省局からの建築物内の機械設備に関して入札の問い合わせがあるとそれを推せんできるよう経験を積み，勧告をする。

⑥ 建築内の機械設備の修理又は取り換えに関して，他の省庁に技術勧告をする。更に輸入品の中で機械関係の部類に属するものに関して，関税局に機械の性質につい

て助言すること。

⑦ 建築内の機械設備の設計，据付，保守，管理に関して当部のメンバーに助言し，指導すること。又，公共事業局トレーニングセンター（Bangi にある）で技師，テクニカルアシスタント，テクニシャンに対して，上記のことを講義すること。

⑧ 機械事業部長によって指示されたその他の任務も全うすること。

7. 執務室の状況

公共事業省は１８階建の建物で，４年前に建設され，現在に到っている。公共事業局本庁は，このビルの中と，このビルの背面に従来から建設されていた４棟３列の４階建の旧館及びその南側の道路を登りつめた丘の上の戦前からの建物とに分散している。機械事業部は，その４棟３列の南西角の第一棟にある。但し，Federal Work Shop は Jalan Cheras，Kuala Lumpur にある。ところでこの棟の一階が部長，次長，各州工場を監督する技師長と Quarry Design Group，General Affairs Group（Chief Clerk とも言う）がある。地階（Ground Floor）には設備設計Ｂと C Group，及びそれぞれの主任技師室がある。二階は，ＡとＤ Group，及びそれぞれの主任技師室がある。又，設備設計の技師長室，及び Expert の室はＤ Group の Floor にある。全体会議の時，又は Group 打合わせの時に地階の Meeting 室へ行き，Ｂ，Ｃ Group の状況を観察する機会はあるが，全員執務の状況は良好のように見受けられた。又，ＡとＤ Group は同じ階でありＡ Group の主任技師がカウンターパートなのでＡ・Ｄ Group とも良く訪れるが，いずれも日本人と比較するとかなりの差があるが，彼等は，彼等なりに良くやっているように見受けられる。Expert の部屋はＤ Group の東端にあり，北側が窓で西側が入口である。大きさは３ｍ×４ｍで主任技師と同じ大きさである。室内は 1.8 ｍ× 0.9 ｍの大きさの机と椅子が３脚，黒板と本箱が各１つあり，当然のことながらセントラル方式により冷房されている。冷気は diffuser（四角状吹出し口）から流れ，窓際のスリット状吸込口から天井を通じて空調機に戻るセントラルフリーリタンシステムをとっている。従って，外気は大変暑くても常に快適空調となっている。但し，停電や断水が時々あるので冷房が止まり，この時は暑くても誰もが仕事ができないので，大変不便である。外部への連絡は電話交換台を通じてやるが，交換手がなかなか出てくれないので実用上役立たず，当電話は受信専用の様で不便である。更に停電の時は，電話線も同時に切れ（電話回路は当局で通常の配電により増幅されているので）受信不能となり全く不便である。室内照明は８０Ｗ螢光灯が４本ある。又，室内に書類受渡し戸棚が１本あるが，今のところ公文書はすべてマレー語である為，充分機能しておらず，技師長，若しくはカウンターパート等へ手持ち翻訳依頼している。

8. 勤務時間及び休日

8.1 勤務時間

8：00－16：15（平日）

8：00－12：45（土曜日）

但し，10：00－10：30（コーヒー・ブレイク）

12：45－14：00（昼食，金曜日を除く）

12：15－14：30（昼食，金曜日のみ…宗教の関係）

8.2 休 日

原則として，日曜日は休日

8.2.1 各官庁一斉休日

① 2月13・14日－Chinese New Year

② 5月 1日 －Labour Day

③ 5月27日 －Wesak Day

④ 6月 1日 －Agong's Birthday

⑤ 7月12・13日－Fasting Day（断食）

⑥ 8月31日 －National Day

⑦ 9月17日 －The Day for Moslem going to Mecca

⑧ 11月 4日 －Deepavali Day（ヒンズー教徒祝日）

⑨ 12月17日 －Prophet Mohammed's Birthday

⑩ 12月25日 －Christmas

8.2.2 首都K. L. の休日

① 1月 1日 －New Year

② 2月 1日 －Wilayah's Day

③ 10月 7日 －First Day of Muharram Day

9. 年次休暇数

上記の公休以外に年間30日（General Circularの改訂項目による）

10. 当該機関における第3国の協力の有無（国際機関を含む）

機械事業部設計部に於いては無し。今回の日本からのExpertの派遣が初めての経験である。聞くところによると，Federal Work Shop に米国の空調技術者が数年前から2・3年前迄駐在したことがあるとの由。彼等は保守管理，修理，据付を担当した。国際機関に関係あるかどうかは不明。他の省庁では，例えば大蔵省，内閣総理府などにドイツの

経理専門家が来ていた。又，現在，韓国の技術者がポンプ送風機等の据付，保守，修理のためFederal Work Shopに来ている。彼は日本の海外協力隊的な活動をしていた。

（２）業務内容

1. 勤務機関の業務

1.1 最近の公共事業局とその業務

当局は，マレーシア政府の技術目標の部署であり，国家プロジェクトを具体的に実施する機関である。当局の略号はマレー語“Jabatan Kerja Raya”（Public Works Departmentが英訳）の頭文字をとって，J.K.R.と呼ばれている。又，別名国民に奉仕するという意味をもつ“Jasa Kepada Rakyat”（マレー語）の頭文字をとってJ：K.R.を誇示している。

局長の挨拶によると，マレーシアの開発計画は今や第４次を迎えている。第３次開発計画は１９８０年末に終了した。これは１９７５年迄に終った第２次と比べて膨大なものであり，人材や機材の調達の見直しをしなくてはならなかった。今回（１９８１年）第４次計画が発表され，当局の人材の必要性が強調された。１９８０年から始まった職員の大量採用の結果，彼等に対して職務遂行上の訓練だけでなく一定の場所で一定の期間に公的に訓練することが必要となってきた。そこでSelangor州，Bangiの地に建設された１００エーカーの訓練校は第一段階が実施され，１９８２年の頭初には，当校のスタッフは既にこの新校舎に移った。この訓練プロジェクトは今日（１９８３年），スムースに第二段階を迎えようとしている。次に，当局の主な方針を述べると，

① Look East Policy

当局は政府のtop policyに従って，専門レベルもしくは準専門レベルの職員を訓練する為に日本と韓国に送った。当職員は，最近の技術と経営の知識を日本等から得ることができ，当局へ戻った際に習得したものを拡げることができると考えられている。

② 総合請負契約

当局は政府のリーダーシップ精神に基づいてfull-turnkey（総合請負）契約による急速な遂行プロジェクトと緊急遂行システムの方向に向っている。このことは，当国の人々が短期間に開発の効能を得ることができると信じられ，この方法で５つの病院が契約される予定である。

③ Project Management
④ Project Monitoring
} 当方の業務内容に直接関係が少ないので省略する。

⑤ コンピューター化（Computerisation）

当局にとって最初のminiComputerが稼動した１９７７年をはじめとして，そ

の後，当局の２州事業所にmicrocomputerが購入され，monitorするようになった。その結果事務記録の基本Dataを記憶するようになりこのmicrocomputerの有用性は今日の最高技術の時代に無視することができないと思われるようになった。その州はこのmicrocomputerでどの部署も事務効率を向上させようとしているし，又，同時に本庁にある現在のminicomputerを各事業部に連絡し，上述のmicrocomputerと同等の有効性を発揮させようとしている。

第３に当局の勤務者について述べると，全体で約４万人おり，そのうち１２,５００人が本庁及び全州連合工場勤務で，２７,５００人が各州事業所及び各州工場勤務である。その中には，１,５００人以上の土木，建築，機械，電気，測量，道路，橋梁などの技師がいる。

1.2　Bangi Training Centerについて

公共事業局のTop Managersは，１９７３年に当局Staff養成のTraining Centerを作る必要性を痛感した。当時は機械事業部だけをみると，Federal Work Shopの一隅に機械技術者のみのTraining Centerを持っていたけれど，その後，当Bangiの地に合流することになった。当局は２５０万M$を支払って１００エーカーの土地を購入しその土地に訓練校を建設し，５００人の研修生を収容できるようになった。その研修生は近いうちに次の施設を活用できる予定である。

①図書室　②視聴覚室　③化学実験室　④建築，電気，機械各実習室，製図室
⑤多目的ホール　⑥回教の修養室　⑦宿舎（一部完成）

１９８０年に建築事業部はこの新訓練所の図面を作成することが認められ，１９８２年６月に第一段階が完成した。現在当訓練所は当局の訓練事業部として稼動しており次の部屋がある。

①一般室　②一般事務室　③講義室　④講師控室　⑤食堂　⑥１６０人用の宿舎

この訓練所の第二段階計画は本館と第二宿舎の建設である。この計画が完成するとTraining Centerは３２０人の研修生を受け入れることができる。この計画に対して現在入札業者を集める段階である。

1.3　機械事業部の業務内容

まず機械事業部長は公共事業局長に対して次の責任をもつ。各省庁内部と連携して政府建物と宿舎の建設計画を実施し，その建物の設備設計を行ない，対外業者と契約並びにその設備の保守管理をすること。又本庁連合工場と各州事業所及び各州工場の機械事業所機関に関して技術的な助言を与えること。従って，機械事業部は当局の組織と活動を保持するのに重要な役割を果たし，実際に多くの他の省庁と同様，当局内の事業部に直接的，間接的に影響を与えている。

次にその業務の内容を述べると，

① 公共事業局内の各事業部，若しくは他の省庁のビルの機械設備，他の関連プロジェクト及び採石場の機械設備等の指導，設計，採用，保守，修理，オーバーホール，取り換え，等を行なっている。また，工事プラント，建設，機械，車輛，等の同上業務も行なっている。

② 同上の事業を実施する為に，当機械事業部には本庁に設計とコンサル部門を置き全州連合工場を持っており，その他１０の州工場には，上記の簡単な作業を実施している。

③ 設計部

上記の設備は政府関係事務所ビル，病院，学校，軍隊，警察関係の施設のものであり，具体的には空調，エレベーター，防火，病院の特殊，厨房，洗濯，ビル内給排水，衛生等の機械設備を実施すること，並びに採石場の施設設計等も当グループの業務である。詳細は(1)・６・４（８ページ）の技師職務内容を参照のこと。

近代建物には，この様な機械事業部のサービスがそのビルを活用する為には必要不可欠である。

2. 専門家の業務内容

2.1 公共事業局配属の由来

(2)の１，勤務機関の業務で述べた通り，マレーシア国の建設需要の急増に伴ない，公共事業局のビル設備設計，機器選定，設置工事，保守修理の業務が急伸していた為に，その人材が量，質共に不足し，これを育成する為に日本政府へその指導技術者を要請した。

要請ルートは，組織図に記載した通り，Prime Minister's Department（内閣総理府），Economic Planning Unit（経済企画庁）から，日本大使館ー外務省ーＪＩＣＡー通産省へＡ１フォームでなされ，その回答は同ルートでE. P. U. へなされ（Ｂ１フォーム），マレーシア政府了解のもとでE. P. U. から公共事業局，機械事業部へ配属された。要請時は，当訓練センターは機械事業部のFederal Work Shopの中にあったが，(2)・１で述べた通り，Bangiの地にTraining Centerができた為に当業務は機械事業部から独立して局直属となった為に後述の訓練センターの業務は一応保留された形である。

2.2 専門家の業務

2.2.1 要　請（Ａ１フォーム）時の内容

イ．冷凍空調分野において，訓練計画書の作成（講義目次，講義ノート．指導要綱，

訓練スケジュール等）及び訓練校の指導

ロ．訓練施設の見直し，及び改良，開発

ハ、実務の現状調査，及び実務指導要領の作成並びに実施（施工）作業水準の改善及び新技術の導入

ニ、カウンターパートの育成

2.2.2　機械事業部赴任後の要請内容

2.1の由来で述べた通り，訓練センターが独立した為に業務内容に変更があった。その内容は次の通り。

イ．設計部内の各技術者（技師長，主任技師，技師，技師補佐）のdailyの冷凍空調に関する実務設計の技術相談に応ずること。

ロ．日本から冷凍空調に関する新技術の導入，指導

ハ．設計部技師，技師補佐及び技能者を集めて毎週1回3時間の冷凍空調に関する基礎技術の講義を行なうこと。

2.2.3　長期の業務内容

イ．上記2.2.2を1年間の目標で実施し，英語（時としてマレー語）での技術講義が慣れた時点でBangi Training Centerへ出向し，全州の技術者を一堂に集めて指導することになっている。

ロ．dailyの技術相談はそのまま続行する。

ハ．新技術の導入はカウンターパートを通じて当部内へ広める。

2.2.4　現在の実施内容

イ．冷凍空調設備技術のみならず，機器及び機械本体並びに給排水，衛生工事の分野まで，実務設計の技術相談をしている。

（例）マハティール首相より，局長，部長を通じて，問い合わせのあったトイレの洗浄水コックを手動より足踏式に切り換える装置についての技術コンサルとか，技師長のカー・クーラーの故障対策。

ロ．同上の実務相談のみならず，その理論計算，その応用技術も時として相談に応じている。

（例）伝熱流体力学計算，高度気圧計の原理を高等数学を使って解明，宇宙服の空調とヒートパイプ等。

ハ．設計部技術者に対する週1回3時間の講義

設計部技術者への冷凍空調に関する講義スケジュールは添付資料5－1の通り。技師長による受講要請書（マレー語）は添付資料通り（資料4）。

ニ．技師補佐及び技能者を対象とした空調の基礎講義（初級レベル）。

その目次（Basic Course in Air Conditioning）は添付資料（5－2）の通り。

ホ。新技術の導入

○１年後に空調設備設計の計算をComputerで行なえるよう検討し，日本の新技術を導入する予定である。（Advance Course）

○技師クラスに冷凍装置の理論と応用を短期間に完璧に理解させる為には，シュミレーターが必要不可欠であり，ＪＩＣＡに予算申請する。

（３）カウンターパート

1. 氏　　名　　Wee Kiah Oh（男子）

2. 年　　齢　　３８才

（生年月日）　１９４４年７月１７日生　中国系マレーシア国民

3. 職　　位　　主任技師

（身分制度として，局長から主任技師まで管理職でＡ～Ｇまでの７階級に分かれる。彼は現在Ｇクラス，事業部長はＣ～Ｅクラス，技師長はＦクラス…このクラスをsuper scaleといい，それ以下はafter senior time scale又はその下にはsalary scaleがある。）

4. 専門分野　　設備設計の機械技術者

資格○B. E (Bachelor of Education of engineering)
＝工学士

○HONS. MAL. (honor of degree in Malaysia) マレーシア国公認

○C. ENG. (Charsted Engineer)

○M. Mech. (Member of Institute of Mechanical of Engineers)

○P. ENG. (Professional Engineers)

5. 学歴及び職歴　１９６８．　6. マラヤ大学機械工学科卒業（University of Malaya）

１９６８．　6. Malaysia政府勤務

Federal Work Shopに配属

18ケ月間ここでengine，ブーリーのオーバーホール，空調設備の修理

1969、12. バハン州，Bentonyの工場へ転勤

エンジンのピストンのオーバーホール；各種機械設備の保守修理

1972、12. 本庁設計部へ転勤

1974、12. 主任技師　現在に到る

6. 専門家との業務上のかかわりあい

(1). 5.で述べたように，カウンターパートは設備設計A groupのとりまとめ技術者であり，自分のgroupの相談と部長，次長，技師長の相談におわれて，Expertと現在のところ，歩調を合わせて仕事をすることは少ないが，実務上，不明な問題が発生した時は，常に相談し，スムースに技術情報を与えられる関係にある。彼は当部内で口頭でカウンターパートを任命されただけで，公式の任命書は持っていないことが最近わかった。そこで彼を当部の窓口とすべく，又,Expertを日本側の窓口とするよう公的にauthoriseさせようとしている。次に彼は，Advance Courseを受ける予定であるが，その時に,空調設備設計をマスターさせると共に，冷凍装置特に冷凍機の習得とパーソナルコンピューターによる設備設計計算技術を習得させたいと考えている。第三に，彼が習得した技術を彼を通じて設計部及び全州の技術者に広めるようにその指導計画書を彼と共に作ることが最終目標である。

7. 日本での希望研修分野及び機関

7.1 希望研修分野，及び機関

① 熱帯向輸出専用空調機及びその冷凍機器（圧縮機）仕様，特徴，性能，及び使用範囲，据付，試運転調整，検査，保守，修理について

② 空調設備設計について

空調計画，負荷計算，機種選定，配管，ダクト配線設計，自動制御，据付，試運転調整，保守，修理のチェックリストの検討

③ 冷凍装置

同上　②と同じ

④ パーソナルコンピューターによる同上②，③の設計法

7.2 希望機関

① 労働省認可　冷熱住設専門学校（静岡県　㈱日立製作所清水工場内外人コース若しくは個別コース），空調機，中小形冷凍機，空調用冷凍装置

② 労働省認可　枚方研修所（日立冷熱住設㈱　大阪枚方研修所）空調設備

③ ㈱日立製作所土浦工場　栃木工場　中条工場

大型冷熱機，家庭用ルームクーラー，エアークリーナ

④ 日立冷熱住設㈱　施設部

パーソナルコンピューターによる空調機の設備設計

（4）指導計画

1. 任期中のマスター・プランは次頁の通り。

2. 上記 (2) 2 で詳細は記載済。

3. 公式に指導する為に局内におけるカウンターパートの正式任命書を取りよせるよう接渉する。

4. カウンターパートの日本派遣は，58年度は不可能なので，59年度には，必ず，実施させたい。関係者に御協力をお願いする予定。

（5）機　　材

1. アナカン輸送（内容は輸送機材の申請手続項目通り）

1.1　輸送機材第1便

№131−5112−1895　3パッケージ

JICA　H.Q. の発送　　57. 9. 27

成田離陸　JAL　615便　　57. 10. 1

JICA (Malaysia) 到着　　57. 10. 16

第1便全部無事入手確認

1.2　輸送機材第2便

№131−5111−2993　2パッケージ

JICA　H.Q. の発送　　57. 10. 4

成田離陸　JAL　721便　　57. 10. 9

内容物で，テレビ，VTR新品の為税関で保留，J.K.R. と大蔵省との接渉後，発行された書面の結果57.10.23通関終了。57.10.28. JICA (Malaysia) へ配送。57.10.29確認

1.3　輸送機材第3便　　2パッケージ

№131−512−3133

JICA　H.Q. の発送　　57. 10. 4

任期中のマスター・プラン

項目＼期	57／下	58／上	58／下	59／上	59／下	60／上	60／下
任期	←（正式任期は59.10. 3 迄）→				←（1年延長の場合）→		
報告書	着任・赴任	定期	中間	定期	総合	定期	延長・総合
実務相談	毎日	毎日	毎日	毎日	毎日	毎日	
期の特長	準備期間	始業	本格	反省	取り纏め	再教育	確認
教育指導	（計画書の作成）						
	Basics	Inter-mediates	Advances	Research	Application		
	（講義ノートの作成，及び講義）						
		Basics	Inter-mediates	Advances	Research	Application	
	（指導要綱及び訓練計画書の作成）						
			Basics	Inter-mediates	Advances	Research	
購送機材	（シュミレーターによる基礎教育指導）			カウンターパートへ			
	予算申請	予算認可予定	購入稼動	引継指導	引継稼動	確認	
訓練校の教育施設見直し		F.W.S での調査	Bangi での調査	勧告書の作成	手直し及び新設備の購入	稼動確認	
新技術の導入	（パーソナル・コンピューターによる空調設備設計）						
	現地予算申請と認可予定，購入とプログラム作成				稼動確認	実務への適用	
カウンターパートの日本における研修	JICAへの登録	59年度派遣の検討，接渉	再申請及び内定取付け	派遣実施予定	帰国後の報告，伝達	効果確認	受入機関へも接渉
調査関係	（冷凍空調技術）						
		調査	資料蒐集	整理	取り纏め	報告	
	（マレーシア冷凍空調工業界，調査）						
			調査	資料蒐集	資料整理	取り纏め	報告
現地生活の事情	初めての経験	調査（任国内）	調査（任国外）	資料整理	取り纏め	報告	

(注)：59／下以降のもの，Advances，Research，Application の項目及び調査関係，コンピュータ関係は初期の任務外であるが新たに要請されているものである。

成田離陸　JAL　721便　　57. 10. 11

第2便と共に税関保留　　57. 10. 21付の大蔵省の書簡により

57. 10. 23通関終了

57. 10. 28JICA (Malaysia) へ配送

57. 10. 29確認

1.4　自宅配送

57. 11. 18.JICA倉庫より，自宅及び事務所へ配送

1.5　日数手続

① JICA (H. Q.) → (M)　第1便　19日間

但し，K. L. 空港到着後半月後JICA (M) へ配送された。

② JICA (H. Q.) → (M) 第2・3便　24日間

2. 勤務先所有機械の種類及び利用状況

2.1. 機械事業部設計部内

① ゼロックス機械1台。

② 電子リコピー1台（古くて故障中，使用できない)。

③ タイプライター5台（英文）　…総務部。

他に設計各グループに1台ずつ　　総計10台。

④ オーバーヘッドプロジェクター1台。

⑤ オーバーヘットフィルム作成器1台

⑥ 製図板　約40台。

⑦ 工具類，製図器具一式。

2.2　Federal Work Shop 及び州工場内

据付，試運転調整，保守等の工具類，機械類があるが，その量は膨大だし，しかも現在の勤務先と離れており，行く機会が今のところあまりないので，調査できず，又機械リスト及び利用状況，情報は入手できていないので次回の定期報告までに調査し，報告する予定である。

2.3　設計部機械（上記2.1）の利用状況

50人の技術者が利用に競う為，例えば，タイプ印刷などは，かなりの日数がかかる。英文タイピストはわずか2名。講義ノートのタイプupはなかなか出来ない状態である。

2.4　輸送機材の利用状況

持参した専門図書約200冊の中で主なものは，毎日活用しており，他のものも時々辞書的に活用している。なお，研修時に同期の者は全員研究社発行の英和大辞典を同梱して送っていただいたが，私は開梱の結果，薬箱と書類バッグのみで辞書はなか

った。毎日持参の古い辞書（２５年前）を使っているが新しいものが必要不可欠なので是非購送していただきたい。

（６）現地生活の実情

1. 住　居

1.1　概　　要

	高所得者層	低所得者層
都　心　部	高層マンション 二階建庭付一軒屋	スラム化したアパート
郊　　外	同　上	平屋庭なし一軒屋
田　　舎	庭付一軒屋（マレーの家）	堀立小屋

高所得者層…外国人，e．g．欧米日本人，一部の中国，インド人。

低　〃　　…都市部では中国，インド人，田舎ではマレー，インド人が主。

1.2　辻 の場合

○日時，場所

'82．10．　4（月）～'82．11．18（木）

Federal Hotel（№1030号）Sdn．Bhd．K．L．　Tel.489166，488144

bath，toilet，twin bed

130　M$／日

10／4　～10／18　JICA割引で91M$／日

サービスチャージ（10%）．Tax（5%）計104.65M$／日

10／19～11／18　1ケ月契約した為，更に値引あり　53.63M$／日

サービスチャージ（10%）Taxは10／24迄　5%

10/25以降　税率変更（10%）その為

10／24迄　61.67M$／日

10／25以後64.35M$／日

ホテルに滞在する場合，JICAでの30%割引契約より，1ケ月契約とすると，更に28.7%の割引となることが判明したので，今後は（後輩の為に）最初から1ケ月契約にすると得である。但し，1ケ月未満で出る場合，JICA契約に戻るという条件を取り決めることが前提である。

一般的に全く素人が知らない土地で，まして外国で，言葉も習慣も慣れていない所で，2～3週間以内に家を決めるのは大変困難で，危険であるので，少なくとも

１ケ月はよく様子をみる必要がある。

○環境（フェデラルホテル）

K. L. 市内の繁華街，Bukit Bintang通りに面している中国人経営の一流Hotel。車で空港より３０分，ＪＩＣＡ事務所より１５分，勤務先より１５分。

内部は警備員を要所に配置しており，防犯上一応安全。冷房調整が悪く，室内は冷え過ぎ，寒く吹出しグリルに新聞紙をあてて冷風が来るのを防いだ。サーモスタットが調整不能であった。これは冷水量が多く（空気式のサーモスタットの比例帯外），冷水温度も低かったと推定される。１０月は雨期に入った為に，室外温度と湿度が高く，室内温度は２２～２４℃と大変低いので，窓の外側に結露し曇って外を見ることは出来なかった。雨の降らない時で，室内外の温度差がそれほど大きくない時は，西側の山麓まで見透が良く夕日が美しかった。業務研修で生水は飲めないとのことでしたが，毎日配られるポットのice water だけは飲めるとのJICAからの御指示により不自由しなかった。

赴任当時１，２ケ月は日中３３～３４℃の暑さの為，真昼道路を歩くことができなかったが，夕方必ずスコールがくるので，その前後冷風が吹き,涼しく凌ぎやすくなった。

○１１／１８以降，庭付，二階建一軒屋（鉄筋コンクリート）に入居。

場所；№１２ Pesiaran Basong, Damansara Heights K. L. Malaysia
Tel ９４４１７６ 庭約２００坪 建屋約６０坪（延） 家賃 3,200M$/月

環境；静かな高級住宅地帯
両側がイギリス人（エッソ石油会社勤務）
インド人 （N. E. B勤務）
向いは中国人 （貿易会社々長）
勤務先より車で２０分の距離（約７㎞）
１２月になると１年中で一番凌ぎやすい時期で，午前中，夜間は涼しいが，しかし午後から日没までは暑くて扇風機，クーラーが必要である。

電源；軒先まで３φ，４５０Ｖ，５０Ｈｚ，４wires の動力線がきており，室内配電箱で１φ，２４０Ｖ，５０Ｈｚの屋内配線が３系統に分けられている仕組。配電箱までは，国立電力会社（N. E. B）が担当，屋内配線は町の電気屋の責任となっている。しかし，各家庭でunbalance な利用をする為，電源電圧の変動が激しく，相間電圧差も大きくなりfilament 電球の寿命も短かくなっており，たびたび切れる。（各電球は２ケ月に１回の割合で切れている）

水道；各家庭の台所のみが飲用として使えるが，屋上タンクに注水して，各洗面所へ分岐，配水した水は飲めない。家主（オーナー）は，台所飲料用水も煮沸しないと飲めないと言うので，常に煮沸した後冷して飲んでいる。世間一般では公共事業局，水道部が言っているのと同じように台所への配水のみは飲めると聞いている。

ガス；エッソとシェル石油会社の二社が供給源で，プロパンガスボンベを購入して利用している。日本のような都市ガス配管systemはない。ガスが少なくなるとガスの火が小さくなるので，ガス会社に連絡して来て貰うが，来るのに早くて一両日かかり不便である。

下水；電気洗濯機を購入し，その排水口がないので側溝を通じて流す為水たまりとなり，それが原因で蚊の発生が生じるとみられるので，月１回業者に消毒依頼している。（費用：４８０M$／年）

洗面所の１つは水もれ，シャワーの管も腐食して水もれ，故障だらけ，未だ修理できていない。

その他；家は約４年間，空家だったと見えて大変汚なく，掃除に３ケ月は要するであろう。入居してみてわかったが，風の方向により雨もりし，家主は全然直してくれない。

しかし，この家に決めた理由は，業務研修中に伺ったgarden partyの出来る家ということに重点をおいた為（強調された），約２０軒探した中で，一番gardenが良いところを選んだが，Utility は大変悪い。手直しが完了するのに，毎週接渉を続けたとしても（電気屋等に連絡してもなかなか来てくれない）当地のペースで半年かかりそうである。

2. 食　事

Hotel滞在時，及び家族が年末（12／29）来る迄は，Hotel内レストラン，Hotel外レストランを利用。

Hotel内は，朝食（10～15M$／回），昼食（約20M$／回），夜食（約30M$／回）で非常に高くつくので，後半は外食に切り換えた。中流レストラン（約10～20M$／回）に通ったが次第に手持金が少なくなってきたので露店で食事（10M$以下）をしたが，時々下痢，腹痛を起こし，再び中流レストランに戻った。又，日本料理店に通った。

食料関係

量は豊富だが種類は少ない。一般に当地のものは日本より安いか同じであるが，日本の輸入食品は２～３倍の値段。

例えば，牛肉は安く（日本の最高級のものほどはおいしくないが，日本の中程度のものが安く，おいしい），魚類は種類が少なく割合高い。又，エビ，イカ等は安い。ブタ肉鳥肉はおいしく安い。

野菜の種類も少なく，キュウリ，ナス，ピーマン等は大味で，菜っぱ類はかたくてアクがきつく食べにくい。果物はリンゴ，スイカ等小さく，熱帯性の果物（バナナ，パインナップル，マンゴー，パパイヤ，ドリアン，ランブタンetc.）が豊富でおいしい。

外食関係

マレー料理　割合安いが香辛料がきき過ぎて日本人の口には合いにくい。（とても辛い）

中華料理　食べやすいが油っこい。（半煮えの貝には気をつけること）値段の巾は大きい。

西洋料理　日本の一般西洋料理店に比べて安いビフテキが食べられる。

日本料理　昼間のサービス定食を除いて，夜間は非常に高い。

インド料理　マレー料理と同様，安いが香辛料がきき過ぎてとても辛い。日本のカレーの方がおいしい。ロティチャナイと言われるインド的クレープはおいしい。

3. 言　語

○複合民族国家なので多言語である。

公用語はマレー語。インド人は英語とタミール（Tamil）語。

○共通語は英語。しかし，それも①Malaysian English　②Chainese English　③Hindu English　④British Englishとあり，①，②，③は聞きとりにくい。

○マレー人はマレー語（Bahasa Malaysia）

○中国人は①Cantonese（広東語）　②Fukken（福建語）　③Hokka（客家）　④manderine（標準中国語）　①，②，③はよく使われ，④は使われていない。

○日本人の英語は一般にJapanese Englishと言われ，American Englishの影響を受けた独特な発音であり，現地人には聞きとりにくいようであるが，欧米人にはよく通じる。当地に初めて赴任した日本技術者は，殆んどすべて現地なまりの英語に悩まされている。例えば，家や車等の部厚い契約書を読む際，難かしい専門用語を辞書で調べながら，理解するのにかなりの時間を要し，それを理解した上で相手と接渉するのが大変であった。これは日常生活であるが，仕事の上ではそれ以上の努力が必要である。

○マーケットで買物の場合は，マレー語の方がよく通じて安く入手できる。ホテル，ス

ーパーマーケットをはじめ一般に英語で通じるので，ついマレー語，中国語等を習う機会を逸すが，赴任早々からこれらの言語をマスターする意気込みであれば，帰国時には１つの言語財産ができると思われるが，我々専門家にはそのような時間的余裕がないのが現状である。

4. 通　信

電話；基本料金は２６M$／月と日本より高いが，K. L. 市内は無料である。但し公衆電話は１０ cents いずれも通話時間制限なし。

国際電話は日本へ申込んだ場合，３０～６０分後に通じるが，日本からマレーシアへの場合はすぐ通じるのでその差は大きい。但し，シンガポールのみは，市外電話と同じく直通でかかる。

電話の名義変更手続きをしたが，家主と電話局との間の書類手続きに手間どった。電話線は雨，雷により混線，不通になることが多い。家を求める場合は必ず電話付家を探すことが肝要である。申込んでから１～２年つかないことが多い。名儀変更だけでも半年～１年かかる。

電報；電報料金は高いが，テレックスは電話代と同じなので緊急の場合は，電話を利用
テレックス　した方が便利である。

郵便・小包；Air Mail で，日本まで通常は４～９日かかるが，日本からは４～７日かかるが，時たま紛れて１～２ケ月かかることもある。（１２通出したうち，２通未着又，開封されて届いたものが１通あった。）従って重要なものは書留とすること。

日本への書留速達は（３５M$），３日で到着。

海外新聞普及協会からは書留速達（２２M$）２日である。郵便局とポスト数が非常に少ない。

小包は殆んど開梱されて，チェックの上送られてくるし，課税品は必ず郵便局へ取りに行かねばならない。小包料金な日本と大して変らないが，Air Mail の葉書，封書とも安い。日本からのSea Mail は１～２ケ月かかる。但し，Air Mail の日本からの返送はSea Mail で来るためか３ケ月かかった。

テレビ；日本のように１日放送していなくて，夕方～１２時頃（真夜中）までで，チャンネルは２種類しかない。殆んどマレー語で，英語のニュースは10：30～11：00までの３０分のみで，時折，英語の映画がある。

中国語とタミール語も英語と同様である。

うつりが悪いので，屋上にアンテナを設置して（設置料２７０M$），よく見えるようになった。（英語のニュースアナウンサーはMalaysian English である）。

ラジオ；夜中を除いて１日中放送している。殆んどマレー語。業務研修での，ＮＨＫの講師の説明通り，屋上にアンテナを設置して，ＮＨＫの国際放送（Radio Japan from Tokyo）を聞いている。その受信機は，輸送機材で送ったAiwa のラジカセの短波バンドでは受信能力がなかったので，新たに当地でHitachi のラジカセ（TRK－９９００Ｗ，７５０M$）を購入し，周波数をあわせると大変よくキャッチできるようになった。日本語と英語のニュースが１時間毎に交互に入ってくる。その他メルボルンからのラジオ オーストラリア，ＡＢＣ日本語放送やロンドンからのＢＢＣ日本語放送，台北からの自由中国の声，日本語放送も比較的明確にキャッチできるので，世界のニュースから取り残されないようになった。

5. 日常品

5.1 衣　類；日本から１年分を買いそろえて持って来たので，殆んど買っていないが，品質，センス共に日本が良いし，又日本製品が値段は高いが人気がある。ホテルとかパーティなどの公式の場で背広，長袖ワイシャツを着用したが到着後２，３日の挨拶の時だけで殆んど必要なく，当地の気候に合った通勤には半袖スーツ（家庭で洗濯可能），及びパーティーにはバティック（ローケッ染の更紗）を着用。勤務先では幹部はワイシャッ，ネタタイ，一般の技術者や事務員は，男子は半袖ワイシャッ，ノーネクタイ，女子は長袖ロングスカートのマレー服を着ている。

クリーニングは年中暑い為，ズボン，スーツ等家で洗濯できる生地が良い

5.2 書　籍；輸入図書は値段は変らないが（但し日本輸入図書は日本価格の２～３倍），
文具　インド出版の海賊版がよく店頭に見られるが，紙質が悪いが，値段は非常に安い。（約1/5）。ノート，便せん等紙類はすべて紙質が悪く，値段が高い。勤務先で公的に使用するものでも予算削減のため，入手困難。

5.3 理美容；都心部でも床屋，美容院が少ない。洗髪，ひげそり等日本のように丁寧にしてくれないので（耳に水が入ったり，ひげそり前にタオルで顔をあたためない），痛い。値段は日本より安いところもあるが殆んど日本並。日本では官庁や大会社では理髪店を持っているが，当官庁にはそのようなものはない。

6. 祝祭日

月日は勤務期間の所に書いた通りです。

○ 赴任後経験した祝祭日

１０月１８日（木）　イスラム暦新年　Awal Muharram

官庁や企業は休みだが，商店は殆んど営業している。日本の正月らしきムードは外国人だった為か，来たばかりだった為か何も感じられなかった。

11月14日（日）　ヒンズー教徒祝日　Deepavali

祝日が日曜と重なったので，日本と同じ月曜日が休日となった。当日はインド人の正月で，軒先に，金色の飾りのれんをつけて，そこにDeepavaliと赤色の文字が書かれていた。勤務先では前日（１３日）に４人のインド人がお互いに金を出し合って約８０人の職員にインド料理を御馳走した。(私の上司技師長もその1人)

12月25日（土）　クリスマス　Christmas

日本と同じようなムードだったが，欧米人は自宅でガーデンパーティーを約１週間（年末まで）に渡って開いていた。中国人，インド人でクリスチャンはこの日前後１０日間，お祈りの為に仕事を休んでいた。機械事業部長もクリスチャンで休みをとっていた。

1月　1日（土）　New Year Day　元旦

新年の始まりということと，欧米人の正月ということだけで日本のような正月気分はなく，官庁，企業は休日だけど殆んどの店が営業していた。１２月２９日に家族が来馬したばかりなので，家の掃除，整理，洗濯に明け暮れて，スーパーマーケットへ食料や身の廻り品を買いに行き，日本の夏のように暑いので，正月という気分は全然しなかった。

2月　1日（火）　タイプーサン　ヒンズー教徒最大のお祭り

Batu Caves（バトウ洞窟）に約２０万人の巡礼者が全マレーシアより集まったと聞いた。当日は休日であったが日本からの引越荷物（1／26到着）の開梱，整理に明けくれ，お祭りを見に行く余裕はなかった。

2月13日（日），14日（月）　Chinese New Year

中国の正月は最大行事なので，次回の定期報告で詳しく述べる。

7.　任国滞在にかかる諸手続

7.1　入国手続…１０月４日（月）

検疫（書類のみ）通過後，入国手続。一般パスポートではVisaが2週間しかないが，公用パスポートで，かつコロンボプランの一員であるため，出迎えのＪＩＣＡ荒金様の御協力により，１ヶ月に変更できた。

7.2　ＪＩＣＡ事務所への事務手続…１０月５日

ＪＩＣＡ本部への着任報告書を提出することによって代替した。

7.3　東銀K. L. 支店にて預金口座の開設…１０月５日（紹介と挨拶）

公金口座…当座預金にて現地業務費の受入の為

私金口座…上記とは別の当座預金で滞在費等の受入の為

7.4　在留届…１０月７日

日本大使館へＪＩＣＡと共に挨拶に行き，在留届を済ませる。

7.5　Japan Clubへの入会手続…１０月７日

ＪＩＣＡ　阿部所長，荒金様の紹介

7.6　輸送機材第１便の受取手続…１０月８日～１６日

ＪＩＣＡ事務所で。

３箱…９月２７日，ＪＩＣＡ発送

１０月１６日，ＪＩＣＡ（M）－１０月１日，JAL６１５便K．L．着にて受取確認。

空港から，ＪＩＣＡ事務所へは現地業務費で支払う。

支払金額　M$１７０.４０，（１０月２０日，Chequeで）

7.7　輸送機材第２便の受取手続…１０月１２日～２９日

２箱…１０月４日　ＪＩＣＡ発送，１０月９日　JAL７１２便K．L着。１０月１２日

ＶＴＲ及びテレビが新品の為，税関にて引渡し保留。１０月１５～２２日，公共事業局，機械事業部と大蔵省との間で免税措置と空港税関への書簡送付手続

１０月２９日　受取。

支払金額　M$２４０.００（１１月８日　Chequeで）

7.8　輸送機材第３便の受取手続

２箱…１０月４日　ＪＩＣＡ発送，１０月１１日　JAL７２１便K．L．着

１０月２９日　受取。

支払金額　M$１１１.００（１１月８日，Chequeで）

7.9　Visaの変更…１１月３日

移民局（Imigration office）にて到着日より１年間取得（'８３．１０．３まで）。

１年毎に更新（滞在Visaへの切換）。

期限一週間前にＪＩＣＡに依頼して変更手続した。

7.10　輸送機材のＪＩＣＡより自宅及び事務所への転送手続

１１月１８日　機械部にて転送手続。

当日，ＪＩＣＡ職員立会いのもとに開梱すると，ポケットコンピュータのケースが，何者かによって破壊されているのが判明。（ＪＩＣＡ倉庫保管中に）

１月２４日　同ケースを現地シャープ代理店Roxy K．Kより購入　ＪＩＣＡでM$２５０弁償ずみ。K．L．にて代理店を探し求めることと輸入に２ケ月を要した。

7.11 車の購入手続

ＪＩＣＡ及び日立マレーシアの御紹介により，日産自動車総代理店Tan Chong & Sons Motors Co. Sdn. Bhd.のJapanese Sectionに１０月１９日Laurel ２００L（2000cc）の仮手続（手付金M$5,000）

１０月２３日正式手続。１０月２６日税率変更（２４日よりの）の為，再契約の要請。納期，価格，仕様について，正式契約。１１月８日免税手続。J. K. R. 機械部と大蔵省との間で実施。１１月１６日付の認可書簡をTan Chongへ渡す。その後，Tan Chongの仕様と手続ミスの為，納期延長（１２月２０日入手）。

7.12 運転免許証

１１月２日申請。１１月４日R. I. M. V.（マレーシア陸運局）で３年間のもの取得。（M$６０.0）

7.13 借家手続

１０月２９日仮手続。３ケ月の家賃のDepositとUtilityの１ケ月のDeposit，１ケ月の家賃，消毒費用（１年分），政府収入印紙，契約費用一式M$１４,７０４支払う。１１月８日正式契約書交換。１１月１８日入居。１２月２８日まで，ガス，水道，電気の手直，及び申込み手続。

7.14 扶養親族呼寄せ申請手続…１１月２０日

7.15 アグレマンとＢ１フォーム㊨し入手手続…１２月１８日

K. L空港税関での家族の個人手荷物及びポートクランでの船便貨物の無税入手のため，ＪＩＣＡの紹介で日本大使館にて㊨し書類入手した。

7.16 空港税関にて家族手荷物の無税通過接渉…１２月２６日（日）

事前接渉と簡単な手続と担当者への申し送り。

7.17 家族の検疫，入国，通関手続…１２月２９日

本人と同様

7.18 子供の入園手続…１２月３１日

日本人学校は幼稚部年中組満員の為，ローカルのBritish系The Alice Smith Schoolの保育園へ入校の手続。（1月3日～4月8日　１期分の授業料M$６６０.0，Deposit M$６６０.00１期分スクールバス　P. T. AM$１１.0……計M$1,３３１支払う。又後程スクールバス１期分M$２００.00支払う）

7.19 日本人クラブ婦人部マレー語部に入部手続…１月５日

１１月６日，電話にて申込み済み。

ＪＩＣＡ本部より，赴任地で婦人のボランティア活動をするようにとの勧めがあり，入会。

7.20 扶養親族（妻）の運転免許申請手続…1月18日

運転免許入手。

7.21 船便貨物の無税通過の為の接渉手続…1月18日

ポートクランのIntegrated Forwarding and Shipping Sdn. Bhd.（貨物受取船会社）へ事前接渉。

7.22 同上代理店（Intas Sendirian Berhad）と船便自宅配送への手続…1月19日

7.23 同上代理店の要請により，ポートクラン保税倉庫における貨物開梱立会い及び無税通過手続…1月24日

A1フォーム，B1フォーム，アグレマン，マレーシア政府発行のGeneral Circular等の㊞し提示により無税通過。

7.24 貨物自宅配送，開梱，内容確認手続…1月26日

全部無事到着

7.25 扶養親族の着任手続…1月5日

7.26 扶養親族のVisaの変更…1月10日

JICA，荒金様に依頼して，到着日より1年（'83．10．3）に延長。

7.27 任国外旅行の申請手続…11月15日（本人）

1月14日（扶養親族）

日本大使館でインドネシア，シンガポール，タイ3ケ国拡張。

7.28 日本国運転免許証の翻訳証明…11月3，4日　（本人）

1月14，17日（扶養親族）

運転免許証取得の為に心要。

7.29 電話名義変更手続…2月10日

7.30 J．K．R．よりベッド等の家財一部借用申請…11月11日

借用家財の借入手続及び到着…12月3日，1月12日

7.31 その他自動車保険，家財の火災，盗難保険は3月にする予定なので，定期報告に書く予定。

8. 教　育

日本人学校は58年度幼稚部年中組は，全体の在籍数が膨張したため，募集せず。ローカルのThe Alice Smith SchoolのKindergarten class（保育部）に入学。当校はBritish系の学校で，月曜日から金曜日まで午前8：00～12：00まで保育。スクールバスが家の門の前に朝7時20分頃迎えに来て，12時30分頃に同じ場所まで送ってくれる。慣れない初めての土地で終始all Englishなので，最初の一週間は行きたがらな

かったが，現在では少し慣れたせいか楽しく通っている。昨年約９ヶ月，日本の保育園に通ったが，それと比較して，日本と生活様式，習慣が違うせいか，行儀作法，躾，衛生等に見劣りする。例えば，日本では，おやつの後に歯を磨く習慣をつけて貰ったが，当校では，そのような訓練はないし，おやつの後の昼寝の時間，床の上に靴をはいたまま，寝かせる等，非衛生的で驚いている。しかし，当校には，約３７ヶ国の子女が通っており，幼い時から国際感覚が身につく絶好のチャンスと思って期待をしている。

9. 健康状態

日本から来て，K. L. 空港に着き，タラップを降りた途端，又税関通過後，タクシー乗り場で，出迎えの車を待っている際，熱気が押しよせて，蒸し風呂に入ったような感じを受けた。聞くところによると１０月～１２月は一般に雨期と言われており，台所の棚などは，単身だった為か，かび臭くなった。特に１０月には，雨が激しく，ケラン川の増水で堤防付近に住んでいた家の少年が濁流にのまれて死亡した。これは，川幅拡張を考慮せず，K. L. 周辺を急激に開発した結果だと推定される。当地の気候は，熱帯性気候で，日中３４～３５℃（D. B.）湿度もいつも８５％以上であった。又しばらく駐車しておいた車の中は，サウナのように暑くなり，ハンドルは触れるとヤケドをするほどの暑さであった。その為日中は日射病の心配で歩けなかった。この熱気に慣れるには，少なくとも半年はかかると思われる。１９８２年の前半は，蚊の媒介によるデング熱がはやったと聞いたが，赴任してからは，今のところ下火である。都心部ではマラリアは聞かない。しかしJICA本部で出発前に御指導を受けた医師の話によると，できるだけ蚊にかまれないようにということなので，夕方になると窓を閉め切り，蚊の侵入を防いでおり，暑いので，いつもクーラー，扇風機を使用している。食事については，ホテルの食事は衛生的であるが，値段が高く，外食するようになり，いろいろな店で食べてみたが，屋台は，しばしば非衛生的で，又油の量や質も違い，よく食あたりをした。身体の調子が良い時とか，又半年ほどしてよく慣れてからであれば，一応大丈夫だと思われるが，赴任して２～３ヶ月は屋台に立ち寄らない方がよいと思う。１日中暑く，食事など生活環境が違っている為，疲れ易く，睡眠は充分とる必要があるとわかっているが，現実は退勤後も，仕事の準備をせねばならなかったり，又関係書類は，公私共英語，マレー語が多く，それを理解するのにかなりの時間を要するので，毎日睡眠不足の日が続いている。これは健康管理に悪いので，早く正常に戻す必要がある。病気で倒れてしまえば，取りかえしがつかないので，報告書の記載時間を犠牲にして睡眠不足を補った。家族が来てからは，衛生的な日本食が食べられるようになったので，上記のような心配は少なくなったが，家族もこのような気候風土に慣れるのに，同じように半年はかかると思われる。

（７）赴任時の任国に対する印象

(6)の現地生活の実情の項で，印象も含めて述べているのでここでは重複しないことを記載する。

1. 言　　語

検疫，通関，入国手続の時に接渉したマレー人の英語が非常にわかりにくかったが，ＪＩＣＡ荒金様の出迎えで一安心した。当日，フェデラルホテルの屋上ラウンジで素晴らしい夜景を見ながら，荒金様からK．L．のいろいろな話を伺い，緊張をほぐしていただいたのは有難かった。

翌日，東銀へ行った時もホテルと同様，守衛がカービン銃を肩にかけてものものしく警戒じている姿をみてびっくりした。日本と違って大変な国に来たなと思った。

勤務先へ案内された時，機械事業部次長から，当組織と職務内容の説明を受けたが，この時の英語は現地なまりのきつい中国英語（Chinese English）で，半分しかわからなかった。次に彼から紹介された事業部長や主任技師の英語も同様で，今後の言語障害の不安がつのった。その為，退勤後，英会話の個人指導を受け，現地では日常会話は不自由なくできるようになったが，仕事の上ではまだまだ特訓を受ける必要がある。

2. K．L．首都圏

K．L．空港は，日本の空港（成田，羽田，伊丹など）と比べて小さい。空港玄関前では藁葺のマレーの家が建てられており，これはショー的だということはわかっていたけれども，大都会を離れた密林の中の空港との印象が強烈であった。それもその筈，K．L．空港到着まで，全く緑の海であったから。空港からフェデラルホテルまでの道は，しばらくは両サイドパームヤシの緑が続き，道路も広く，次いで王宮，高層ビルが立ち並んだり，アラビアスタイルの建物があったりして，大変エキゾチックで近代的で美しい都市だとの印象を持った。勿論，空気も大変きれいだった。所で，フェデラルホテルにしばらく滞在してみて裏通りを歩くようになり，今までの印象とは１００％変った。高層アパートはスラム化しており，又，貧民街の軒先が連なっており，その前で数多くの屋台が異様な臭いを醸していた。話している言語も数種類の中国語，タミール語や現地なまりの英語でわからなく，服装も汚なく，皮膚の色も様々で薄暗ヤミに目だけがギョロギョロしていて，若干，身辺の不安を感じた。しかし，幸いなことにマレー人やインド人は日本人だと解ると比較的好意的であった。一部の中国人は気のせいか，警戒的な印象を受けた。特にタクシーの運転手が料金ごまかし（料金メーターをストップして後で沢山要求したり，又おつりをくれない。目的地を大きく迂回したりなど）の雲助タクシーが目立った。但し，これはホテルのまわりをとりまくタクシーで，現在の住所に来てからは，当地に住んでいるとわ

かっている為かその様なことは一度もなかった。郊外には高級住宅地帯があり，上述のことから，貧富の差が日本に比べて大きいとの印象を受けた。

3. 食　事

一般食堂では，マレー人やインド人が右手だけだが手づかみで食事をしているのをみて，厭な印象を受けた。事務所の者から勧められて，一度だけ国際親善と思って試みたが，手の感触が嫌で，又手をよく洗ったものの不衛生な感じを受け，二度とやる気がしなかった。

4. 天然資源

当国は日本と同じ程度の広さで，人口は約1／10，天然資源も豊かで，原油も輸出しているほどの国である。その為か，エネルギーの浪費が多いと感じられた。どの家庭を見ても，家庭用温水ヒーターの熱源はすべて電気である。これに豊かな太陽エネルギーを利用すれば，大変節約できるであろう。それにしては，太陽熱温水器を持っている家は一軒も見当らないし，現在建築中の家でさえ，太陽熱温水器をつけていない。冷房は，コールド・ショックを受ける程，冷している。これはエネルギーの面からも浪費である。

5. 勤務先

機械事業部でコロンボプランの専門家を受入れたのは初めてなので，不慣れな面もあるけれど，全員，大変好意的であり，明るく親切である。しかし，13年前の市民戦争の影響が残っているせいか，民族同志の間に秘めたる抵抗感があるように見受けられる。これが国際協力へのネックにならなければいいのにとの印象を受けた。

職場における階級制度は欧米のように強く，日本のように上，下共に食事をしたり，語ったりすることは少ないように見受けられる。技術力も主任技師，技師，テクニカルアシスタント，テクニッシャンそれぞれの間に大きな開きがあり，彼等のギャップを埋めたり，初級技術者を実務戦力のレベルまで持ちあげることは，一人では仲々大変だとの印象を受けた。むしろ，専門家一人だけの力に頼るのでなくて，プロジェクトチームを形成して，全員の指導，訓練に当るのがいいのではないかと思われた。しかし，daily workの問い合わせの中でon the job training方式で冷凍空調の指導を行なっているが，この指導は底無し沼のような印象を受けたので，落着いたらもう一度そのやり方に対して反省し，整理，見直しをする必要があると思う。なお，職場の人達は皆，それぞれの部署で，それぞれの任務を全うすべく，一生懸命努力しているところを見ると，日本人も学ぶ点があるだろう。たゞ彼等にとって，日本はもっともっと熱心に働いていると信じており，時々そのような問い合わせがあり，考えさせられた。

Schedule of Mr. Tsuji's Lecture on Air Conditioning

1. Period

   March /'83 - September /'84

2. Venue

   Meeting Room in Mechanical Division or Conference Room in J.K.R. (Public Works Department) Head Quarters.

3. Level, Attendance and Term

   1. Basic Course:-

      Intended for Technician
      5th March - 10th October
      Anyone can attend the lectures

   2. Intermediate Course:-

      Intended for Technical Assistant
      November /'83 - April/ '84
      Anyone can attend the lectures

   3. Advanced Course:-

      Intended for Junior Engineer
      May /'84 - September /'84

4. Time of Sessions

   First Session 8.30 - 10.00)
   Second Session 10.30 - 12.00) Every Saturday

5. Confirmation of Understanding

   1. Simple Test:-
      Lasting 10 minutes after the lecture.

   2. Roll (Attendance) Book
      for 5 minutes before the lecture.

   3. Final Test
      for an hour after the last lecture in the each course

   4. Enquete (Questionaire)
      for half an hour after Final Test in the each course.

6. Questions

Please, ask questions in writing only. as a rule Questions will be answered during the following session.

7. Introduction of the contents in the lecture:-

Please, refer to the appended papers.
"Basic Course of Air Conditioning".

8. Self-Introduction of Participants

Please, fill in the name and group you belong to, on the sheets of Roll Book.

19. 佐 沢 栄 一 専 門 家

業　務　報　告　書

58年　9月分）

58年10月　3日

国際協力事業団

派遣事業部長殿

第　2　号

氏　　名	佐　沢　栄　一
指　導　科　目	水資源開発（河川工学）
現　住　所	№32　JALAN　BEKA, DAMANSARA　HEIGHTS. K. L.
通　信　連　絡　先	DRAINAGE　&　IRRIGATION　DEPT., （D. I. D）
勤務機関名および住所	JALAN　MAHAMERU, KUALA　LUMPUR, MALAYSIA

〔A〕　業務について

1.　派遣先D. I. Dにおける技術協力及び指導について

1）　JICAベースにて実施中のPERLIS−KEDAH−PENANG　地域のWATER RESOURCES　STUDY

2）　来年度より実施予定のJOHOR地域のW. R. S

3）　水資源開発PROJECTに関するHYDROLOGICAL　INVESTIGATION

4）　上記PROJECTを円滑に推進させるためSTUDY　TEAM, COMMITTEE等，両国間のCOOR　DINATIONを行なう。

5）　河川計画及び河川改修に関する技術

6）　技術職員のトレーニング

2.　水資源開発について

マレイシアにおける水資源開発PROJECTはE. P. U　（Economic planning Unit）のDIRECTOR　OF　INFASTRUCTURE　&　UTILITIESがCHAIRMANとなり推進しているが，関係する機関がD. I. D（農業用水，洪水防ぎょ，河川の管理，推持），P. W. D（上水道），厚生省（下水道），通産省（工業用水），電力庁，環境省などの多機関に亘っている。マレイシアはここ数年来，国土開発に力をそゝぎ目覚しい発展を遂げつゝある。同時に発展の基幹となる水の需要が増大し，国全体としての総合的な水資源開発が必要となってきた。

これまで各省庁において，それぞれ各自の利用目的に沿った水利用，管理法をもって，

バラバラに実施して来たMALAYSHIA, NATIONAL WATER RESOURCES STUDYに着手以来，水資源開発に関する内外の関心は高まって来た。然し総論賛成，各論コメントで，各省庁のインタレストにずれがあったりして，水資源開発PROJECTを大成させることは容易でなく，今後共努力が必要である。

この様な現情の中で，ＪＩＣＡベースで実施されたマレイシア全国水資源開発計画調査MALAYSIA, NATIONAL WATER RESOURCES STUDY, 1982, は当国における唯一の国家的指針及びMANUALとして各PROJECT（開発）に活用されると共に高く評価されている。

そして現在実施中のP.K.P（Perlis/Kedsh/Penang）地域水資源開発調査は地域での具体的なPROJECT実施のパイロットとして重要な役割りを果しつつある。

他方，水資源の主なSOURCEである“河川”に幾多の問題があり，水資源↔河川の問題をどのようにして解決していくのか，河川計画及び改修に関する技術指導も大変重要な課題である。

3. 河川計画，改修について

マレイシアの河川はくねくねと蛇行した自然河川が多く殆んどの河川が未計画（未改修）であり，流砂（スズ鉱山等による…）沿岸流による河口閉そく（特にマレイシア半島東海岸）未改修による流下能力不足等により，各地で出水のあるたび洪水，氾濫及び被害をもたらしている。

そして近年，各地域で住宅及び工業団地等の開発が先行され，水需要が増大すると同時に裏面では洪水にも悩されている所もある。

よって水利用及び治水 FLOOD CONTROL を加味した水系一貫，地域全体から眺めた河川計画及び改修が必要である。

マレイシアにおける河川改修は数年前に着工したSG. KELANG（クラン川ー首都クアラ・ルンプール市を貫流する都市河川，川巾約４０m，特殊堤（コンクリート），Q＝７５０m^3/S）が始めての計画（アメリカのコンサルタントの計画）及び施行である。然し，このProject にしても，河床安定，堆砂，内水，流量検討…など問題点をかかえている。

4. 派遣先における技術協力及び指導方針について

着任当時ＪＩＣＡ前阿部所長，Dy. DIRECTOR MR. CHEONG, そしてCOUNTERPARTのMR. SIEH と共に打合せた際，専門家のDUTYは要請通り，水資源開発に関する事項について協力してほしい。然し，これに関連する河川計画等の諸問題があるので，これらの点についても協力，アドバイスしてほしい旨要請があり，基本的に

諒承した。然し一専門家では全てをカバーする事は無理なので，水資源開発を主として河川技術は従として，ケースバイケースで協力，指導にあたっていく事を確認，現在この方針で実施している。

5. D. I. DのORGANISATIONと専門家の位置づけ

D. I. DのORGANISATION CHARTは別添の通りである。

仕事の実務はCHIEF COUNTERPARTと共に行っているが，重要な問題についてはDEPUTY DIRECTORとの三者協議によって実施している。DEPUTY DIRECTOR MR. CHEONGはNATIONAL WATER RESOURCES STUDY PROJECTのTECNICAL COMMITTEEのCHAIRMANでもあり，忙しい方ですが，COUNTER PART と共に非常に協力的である。

6. COUNTERPARTについて

MR. SIEH KOK CHI. マレイシア大学土木工学科卒1963年

大変優秀，activeな方で，本PROJECTに関し，1982年，JICAの研修にも参加しており，日本の水資源開発及び河川工学について学んでいる。

〔B〕 任国の一般事情について

着任してまず物価の高騰に目を見張りました。特に，ホテル，自動車，アルコール類そして住宅…その一例を示すと

	1976年頃	1983年
(イ) ホテル	40～150M$	70～230M$
(ロ) 自動車（1600cc）	14,000M$	22,000M$（約240万円）
(ハ) 住　宅	1,000～1,500M$	2,500～3,500M$

着任専門家にとって，住宅捜しは一苦労の一つです。前任者から引継がない限り，友人の紹介又は新聞の公告等によりHOUSING AGENTを通して捜します。誰しも着任早々は土地カンや適当な値段，そして家賃の交渉に不慣れだからです。

また，子供さんが日本人小学校に通学する場合，日本人学校専用スクールバスのルート上に住宅が制限されることから自然と日本人⊕外国人居住地区になり，家賃の高い地区に住むことになる。

2. 日本人学校（５８６名）

	生徒	先生
幼稚園	５９名	３名
小学校	４２９名	１２名
中学校（１～３）	９８名	７名
		（現地英語）２名

K．L日本人学校の学力レベルは国内と比較して可成り高いレベルにあると云われています。然し，それでも心配で，中二～三になると子供さんだけ帰国させる人も中には居るとか。

最近，K．Lまで日本の塾が（進研ゼミ，富士学院）進出し子供達は土，日などにしどかれているようです

中学三年（２３名）は日本での受験を考慮して１月繰上げ卒業，そして当地には日本人高校が無いので，帰国させるか，又はK．LのINTERNATIONAL SCHOOLへ入学するかの選択が必要です。INTERNATIONAL SCHOOLは

(1) アメリカ系のINTERNATIONAL SCHOOL 費用 15,000M$／年

(2) イギリス系のGARDEN SCHOOL 〃 9,000M$／年

（いずれも生徒数８００名位）

3. 治安 SECURITY

政治的にもマレイシアは東西アジアでは治安の良い国だと云われています。然し，住んでみると，各家庭のSECURITYにはいま一つ不安があり，ゲート及びドアには二重のカギをかけ，番犬を飼っている人が多い。今の所大きな事件に合った人はいない様ですが現金ドロボーに押入られた人は何人かいます。

4. 交通機関

殆んどの人が自家用車使用（通勤，買物）

5. 日本料理店

４～５軒

6. 日本式カラオケ＆バー

５～６軒

7. 日本食品

K．L市内の殆んどのスーパーで取り扱っています。中でもこの３月にオープンしたKIMI SAWAスーパーでは，サシミ，サケ…なんでもあります。但し，値段は２０～５０％高。

◎米は日本米に似たオーストラリア米が購入出来ます。

8. 健康管理について

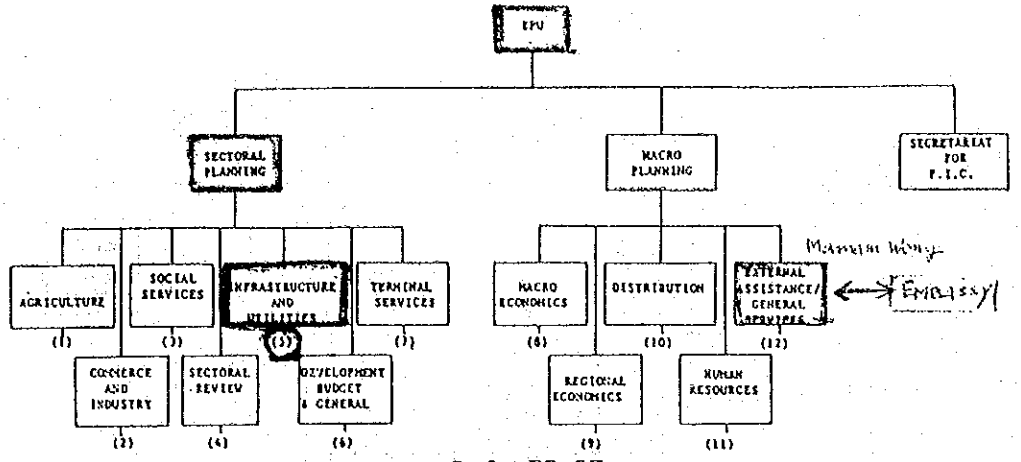
当地では会員制のスポーツクラブがPOPULARですが，K．L 市内外の名あるクラブ（ロイヤル・セランゴール、スバン・ゴルフクラブ等）は入会１００％無理で，車で遠くへ出かけたり，又市内の公営コート（申込み制）及びプール（有料）などを活用しています。

9. 交　流

日常生活（office外で）は大人も，日本人グループ中心社会で，余り異国を感じさせません。よって，現地人，外人との交流の場，チャンスがきわめて少ないのがチョット残念です。

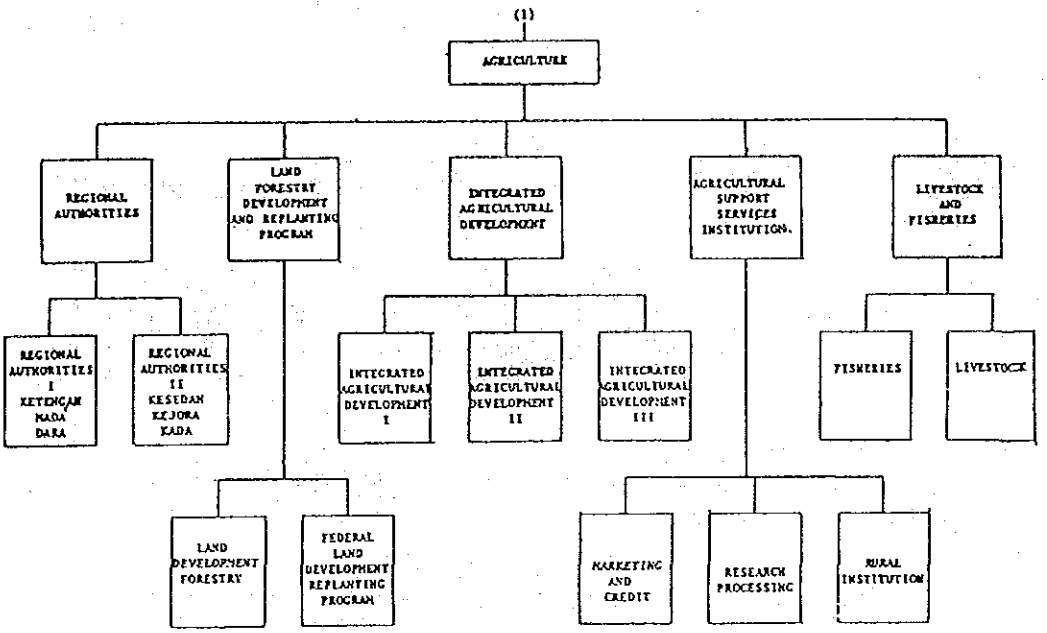
長期派遣専門家調書 (1)

① 派遣国名		マレイシア	② 氏　名	佐　沢　栄　一
③ 指導科目		資源開発（河川工学）	④ 前所属	建設省建設大学校
⑤ 派遣期間		昭和５８年３月１日～６０年２月末日		
配属先	⑥ 機関名及び役職	DRAINAGE & IRRIGATION DEPT.,MINISTRY OF AGRICULTURE		
		農業省かんがい排水局（部）　コロンボプラン専門家		
	⑦ 住　所	JALAN MAHAMERU, KUALA LUMPUR, MALAYSIA.		
	⑧ 電話番号	９２８７２９（直通）		
カウンターパート	⑨ 役　職	SENIOR ENGINEER, 上席技師　CHIEF COUNTER PART OFFICER N-W-R STUDY PROJECT		
	⑩ 氏　名	MR. SIEH KOK CHI（シヤ コク チー）		
専門家の連絡先	⑪ 自宅(在国) 住　所	№３２　JALAN BEKA, DAMANSARA HEIGHTS. K. L, MALAYSIA		
	電話番号	９４９４１４		
	⑫ 国内 住　所	佐沢明博（弟）　東京都練馬区貫井（ぬくい）3-33-3 富士見台ファミリーコーポ206		
	電話番号	９９８－４５５１		
⑬ 前任者		氏名　谷本修志　　任期　３年　　前所属		
⑭ 配属先組織図		別添参照：ORGANISATION CHART OF THE DRAINAGE AND IRRIGATION DEPARTMENT (1.1.1983)		
⑮ JICA担当者		所属課　派一　　氏名　白石さん　TEL		



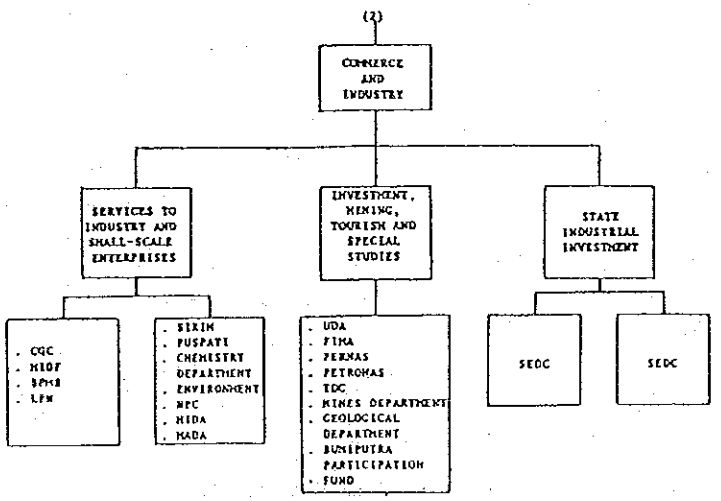
Source; Ref. PS 37

Fig. 2 Organization Chart of EPU (1/6)



Source; Ref. PS 37

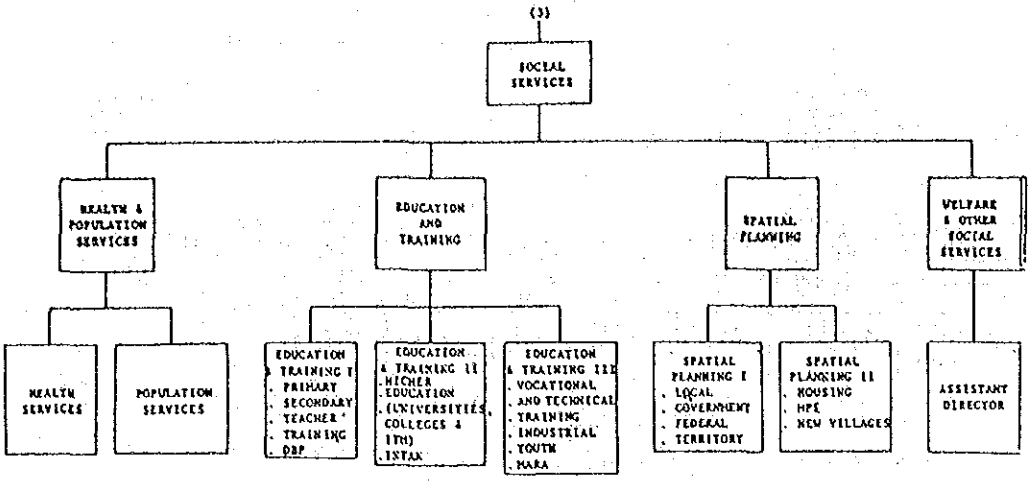
Fig. 3 Organization Chart of EPU (2/6)



Source; Ref. PS 37

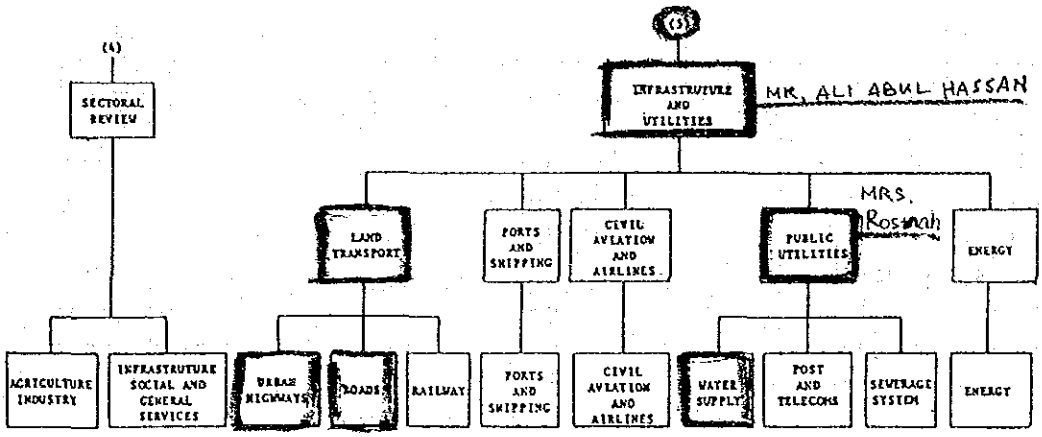
Fig. 4 Organization Chart of EPU (3/6)

GOVERNMENT OF MALAYSIA
NATIONAL WATER RESOURCES STUDY MALAYSIA
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY



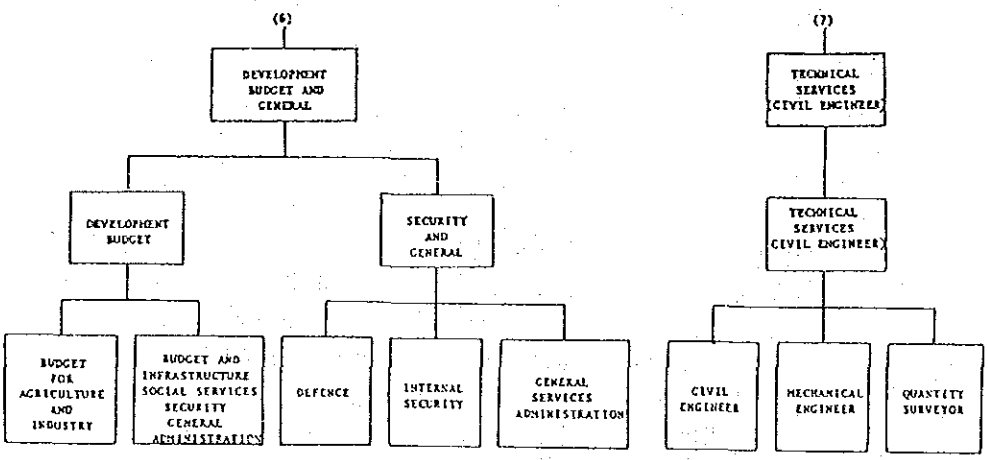
Source; Ref. PS 37

Fig. 5 Organization Chart of EPU (4/6)



Source; Ref. PS 37

Fig. 6 Organization Chart of EPU (5/6)



Source; Ref. PS 37

Fig. 7 Organization Chart of EPU (6/6)

ORGANISATION CHART OF THE DRAINAGE AND IRRIGATION DEPARTMENT MALAYSIA (1.1.1983)

- DIRECTOR GENERAL SUP. B — MR. PANG LEONG HOON
  - DEPUTY DIRECTOR GENERAL SUP. C — MR. CHEONG CHUP LIM
    - CHIEF MECHANICAL ENGINEER FED. WORKSHOP SUP. F — MR. MAHADEVAN
      - STATE WORKSHOP JITRA, KEDAH T.S
      - STATE W/SHOP KOTA BHARU, KELANTAN T.S
      - STATE W/SHOP BATU PAHAT, JOHOR T.S
      - STATE WORKSHOP KUANTAN, PAHANG T.S
      - STATE WORKSHOP PERAK T.S
      - STATE WORKSHOP SELANGOR T.S
      - STATE WORKSHOP TRENGGANU T.S
    - CHIEF COUNTER PART OFFICER NATIONAL WATER RESOURCES STUDY PROJ. SUP. G — MR. SIEH KOK CHI
      - C. P. EXPERT — MR. EIICHI SAZAWA
    - SENIOR ENGINEER SUP. G — MR. PEH KAY SOON
      - NATIONAL SMALL SCHEMES
      - EVALUATION
    - ADMINISTRATION & FINANCE DIRECTOR SUP. F — MR. ABDUL RAHMAN YAHKOB
      - EXECUTIVE OFFICER (SERVICE) — MR. EDZAHAR.
      - EXECUTIVE OFFICER (FINANCE) — MR. SHAMSUDIN
  - ASSISTANT DIRECTOR GENERAL PLANNING SUP. E — MR. FADZIL BIN HASSAN
    - CHIEF PLANNING ENGINEER SUP F
    - CHIEF DESIGN ENGINEER SUP F
    - CHIEF HYDROLOGY ENGINEER MR. TAN, MR. TEH SUP F
    - DIRECTOR TRAINING & CAREER DEVELOPMENT SUP. G
    - DIRECTOR RESEARCH STATION SUP. F
    - PRINCIPAL WATER MANAGEMENT TRAINING CENTRE SUP. G
    - PRINCIPAL STAFF TRAINING CENTRE SUP. G
  - ASSISTANT DIRECTOR GENERAL NORTH SUP. D — MR. SHAHRIZAILA BIN ABDULLAH
    - STATE DIRECTOR PERLIS SR.T.
    - STATE DIRECTOR KEDAH SUP. F
    - STATE DIRECTOR PENANG SUP. G
    - STATE DIRECTOR PAHANG SUP. F
    - DIRECTOR PAHANG TENGGARA SUP. G
    - STATE DIRECTOR TRENGGANU SUP. G
    - STATE DIRECTOR PERAK SUP. F
    - PROJ. ENGINEER MUDA IRRIGATION SCHEME SUP. F
    - PROJ. ENGINEER KRIAN / SUNGAI MANIK AGRI. DEVELOPMENT SCHEME SUP. F
    - PROJ. ENGINEER TRANS-PERAK PROJECT SUP. G
    - PROJ. ENGINEER ENDAU / ROMPIN PROJECT SUP. G
    - PROJ. ENGINEER AGRI. DEVELOPMENT SCHEME, PERLIS SR.T.
    - PROJ. ENGINEER AGRI. DEVELOPMENT SCHEME KEDAH VALLEY. SUP. G
    - PROJ. ENGINEER AGRI DEVELOPMENT SCHEME BALIK PULAU & SEBERANG PRAI SUP. G
    - PROJ. ENGINEER TRENGGANU HILIR SR.T.
  - ASSISTANT DIRECTOR GENERAL SOUTH SUP. D — DATO' TAY LANG SENG
    - STATE DIRECTOR NEGERI SEMBILAN SUP. G
    - STATE DIRECTOR MALACCA SR. T.
    - STATE DIRECTOR SELANGOR SUP. F
    - STATE DIRECTOR SARAWAK SUP. F
    - STATE DIRECTOR SABAH SUP F
    - DIRECTOR FEDERAL TERRITORY SUP. G
    - PROJ. ENGINEER K.L. FLOOD MIT SCHEME SUP F
    - PROJ. ENGINEER NORTH WEST SELANGOR AGRI. DEVELOPMENT SCHEME SUP F
    - PROJ. ENGINEER NEGERI SEMBILAN TIMUR PROJECT SUP G
    - DIRECTOR AGRI. DRAINAGE PROJECT SUP G
    - PROJ. ENGINEER AGRI DEVELOPMENT SCHEME MALACCA SR T
  - ASSISTANT DIRECTOR GENERAL PROJECT SUP E — MR. KHOO SOO HOCK
    - STATE DIRECTOR KELANTAN SUP F
    - STATE DIRECTOR JOHORE SUP F
    - PROJ. ENGINEER WESTERN JOHORE AGRI. DEVELOPMENT SCHEME SUP F
    - PROJ. ENGINEER NORTH KELANTAN RURAL DEVELOPMENT SCHEME SUP F
    - PROJ. ENGINEER KEMASIN / SEMARAK PROJECT SUP G

JICA